

# 第3次前橋市 地域福祉活動計画



前橋市社会福祉協議会

**3rd ACTION PLAN**

MAEBASHI

COUNCIL OF SOCIAL WELFARE



# ～ 目 次 ～

## はじめに

## 第 1 章 地域福祉活動計画策定にあたって

1. 地域福祉の動向と地域福祉活動計画の策定…………… 08
2. 地域福祉計画と地域福祉活動計画と地区別計画について…………… 10
3. 地域（圏域）の捉え方…………… 13
4. 第 2 次前橋市地域福祉活動計画の評価…………… 14
5. 計画を推進する主体…………… 16

## 第 2 章 地区別計画について

1. 各地区福祉活動の経過と今後の進め方…………… 20
2. 各地区別計画（23地区）…………… 26  
岩神地区 敷島地区 若宮地区 城東地区  
中部地区 中川地区 文京地区 南部地区  
上川淵地区 下川淵地区 芳賀地区 桂萱地区  
東地区 元総社地区 総社地区 南橋地区  
清里地区 永明地区 城南地区 大胡地区  
宮城地区 粕川地区 富士見地区
3. 前橋市社会福祉協議会の果たす役割…………… 50

## 第 3 章 地域福祉活動計画について

1. 前橋市の現状と課題…………… 56
2. 地域福祉活動計画策定に向けた課題の整理…………… 57
3. 基本理念と目標…………… 60  
活動目標 1 地域づくり…………… 62  
活動目標 2 相談支援…………… 64  
活動目標 3 参加支援…………… 66  
活動目標 4 生活支援…………… 68
4. 計画の評価と進行管理…………… 70

## 資 料

1. 前橋市地域福祉活動計画策定委員会設置要綱…………… 75
2. 前橋市地域福祉活動計画策定委員会…………… 76
3. 計画策定経過…………… 77
4. 課題の選出に関するデータ…………… 78

# はじめに

## 地域福祉活動計画を読まれる前に

あなたにとっての今の地域はどのような場所ですか。  
2つの質問に答えて、○で選んでください。

### 質問1：今の地域との「関わり方」

- ( ) 1. 支え合いや交流があり、安心して暮らせる場所
- ( ) 2. あいさつは交わすが、深いお付き合いはあまりない場所
- ( ) 3. 生活の拠点（住むだけ）で、あまり関心がない場所
- ( ) 4. 人のつながりが薄く、少し寂しさ（孤立感）を感じる場所
- ( ) 5. 課題（高齢化や防犯等）が目につき、将来が少し不安な場所

### 質問2：今の地域への「印象」

- ( ) 1. 愛着があり、地域の活動にもできるだけ参加している場所
- ( ) 2. 特に不満はなく、穏やかに暮らせている場所
- ( ) 3. 昔に比べ、魅力や活気が減ってきたと感じる場所
- ( ) 4. 近所の人顔もあまり知らず、関わりが持てない場所
- ( ) 5. 助け合いが少なく、いざという時に不安を感じる場所

ここで向き合った「素直な気持ち」を、どうか大切に胸に留めてください。

あなたの感じているその「今」が、すべての活動の出発点です。  
今のあなたの想いが、この計画を通じてどう変わっていくのか。  
ページをめくりながら、一緒に考えていきましょう。

# はじめに

市民の皆様には、日頃より地域での福祉活動に対し、多大なるご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。この度、第2次前橋市地域福祉活動計画の期間満了に伴い、新たな「地域福祉活動計画」を策定いたしました。

策定にあたりましては、市内23地区の地区社会福祉協議会をはじめ、多くの市民の皆様、そして関係機関・団体の皆様より、貴重なご意見とご協力を賜りましたことに、厚く御礼申し上げます。

## 「お互いさま」のその先へ。まえばしが踏み出す新しい一歩

私たちはこれまで、地域の課題を共に解決する「協働」の力を大切に育んでまいりました。

現在、前橋市内では数多くの町社協が設立され、住民主体による創意工夫に満ちた活動が展開されています。

この度、地域で積み重ねていただいたこれらの活動が評価され、「優良社協活動」として全国表彰を受けることができました。これは、「自分の町を良くしよう」と奔走する皆様のご尽力が高く評価されたものであり、その活動こそが前橋の「宝」であり「誇り」です。



しかし今、少子高齢化が進み、「社会的孤立」や「制度の狭間」にある課題が複雑化する中で、私たちは、これまで築き上げてきた活動基盤（プラットフォーム）を土台とし、これまでの活動を大切にしながらも、移り変わる地域社会において、もう一歩先へと進む必要があります。

地域には「誰かのために何かをしたい」「自分の力を役立てたい」という想いが数多くあります。そうした一つひとつの想いを大切に紡ぎ合わせ、広げていくことにより、地域を包み込むセーフティネットとしての力へと変えていくことができると信じております。

## 「協働」から「共創」へ ～いろいろな人の声が混ざると、地域はもっと楽しくなる～

そこで本計画では、「協働から共創へ」をテーマに掲げました。これまでの地域のつながりに加え、NPO、専門職、地元企業、学生など、多様な人々がそれぞれの強みを持ち寄り、身近な地域の人たちとアイデアを出し合いながら実現していく。

そうすることで、これまでの「支える側・支えられる側」という関係を超えて、「誰もが自分のできることを、自分らしく地域と関わる」関係へと変えていくことができます。

## 自分たちの地域は、自分たちでコミュニケーションをとりながら共に創っていく――

その思いこそが、暮らしと生きがい、そして地域を共に創っていく社会（地域共生社会）の実現へとつながるはずです。

本計画をもとに、「みんなでつながり合い支え合う笑顔のまえばし」の実現に向けて、前橋市社会福祉協議会としても市民の皆様と共に全力を尽くしてまいります。

結びに、地域での福祉活動に対し、市民の皆様の変わらぬご支援とご参画をお願いいたしまして、あいさつとさせていただきます。



令和8年3月 前橋市社会福祉協議会長

南雲 厚

# 第1章 地域福祉活動計画策定に あたって

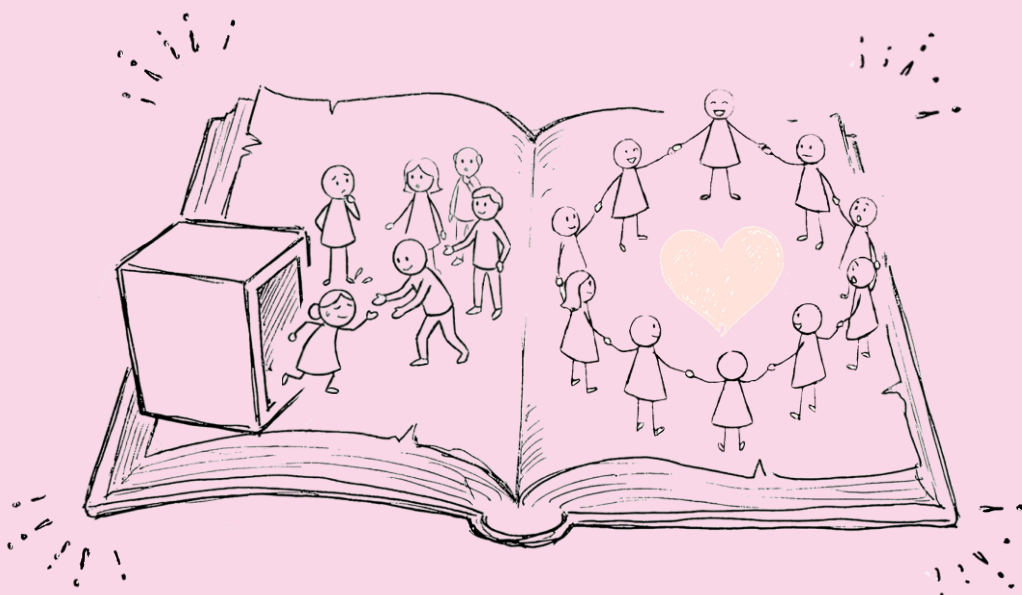
一人ひとりの力は小さくても、その想いが集まれば、地域を温める大きな焚き火になります。

今まで紡いできた「第2次計画」というバトンを受け取り、これからの時代に合わせて、どう進化させていくのか。

そして、制度の狭間にある「制度では救えない困りごと」を私たちの手でどう支えていくのか。

ここに書かれているのは、単なる計画ではありません。誰もが役割を持ち、誰もが主役になれる。

そんな「あたたかい地域」をつくるための、物語のプロローグです。



第1章

# 地域福祉活動計画とは

## これまでの軌跡      これから目指す道のり

本会では長年にわたり、「見守りフォーラム」を通じて、地域における孤立を防ぎ、誰もが安心して暮らせるネットワークづくりに尽力してまいりました。そこで培われた地域の連携は、私たちの活動の揺るぎない土台となっています。

しかし、社会環境の変化と共に、地域課題はより複雑化・複合化しています。単に「見守る・見守られる」という関係を超え、年齢や障がいの有無、生活状況といった背景にかかわらず、誰もが地域

の一員として役割を持ち、支え合う関係性が、求められています。

こうした時代に応えるべく、令和5年度より名称を「地域共生フォーラム」と改め、「連携」から「協働」へ、そして、「協働」から「共創」へと広がってきました。

本計画は、こうして積み重ねてきた対話と気づきを基盤とし、これから目指すべき「地域共生社会」への道のりを示すものです。

### 令和5年度

持続可能な地域コミュニティを目指して、多様な主体との連携を考える

～協働における  
それぞれの視点と工夫～



ねらい  
持続可能な地域づくりに向け、多様な主体と連携する「視点」を共有し、協働の土台を築く。

### 令和6年度

2025年を迎えた今、まえばしの地域共生について考える

～つながる・支え合う～わたし  
たちにできることを考える～



ねらい  
地域のつながりを再確認し、一人ひとりが「自分にできる役割」を見つけ、主体的な実践へとつなげる。

### 令和7年度

協働から共創へ  
～多様な主体とつくる、  
まえばしの未来

～いろんな人の声混ざると  
地域はもっとおもしろくなる。～



ねらい  
多様な主体の実践を掛け合わせ、新たな価値を生み出し、ワクワクする「まえばしの未来」を自分たちで共に創る。

きょうどう きょうそう

# 協働から共創へ

From Collaboration to Co-creation

## 持続可能な「つながり」と「共創」による 地域共生社会の実現

私たちは、前橋市地域福祉計画基本理念「みんなでつながり合い支え合う笑顔のまえばし」の実現に向け、第3次前橋市地域福祉活動計画を策定・推進します。

目指すのは、今、市内のあちこちで芽吹き始めている多様な活動を、一時的なイベントで終わらせることなく、地域にしっかりと根付く「文化」へと育てることです。

制度の壁や、世代・立場の違いを越えてつながり合う。

そんな「地域共生」の新しいモデルを、ここ前橋から発信します。

## みんなが主役の地域づくり ～「支える・支えられる」の関係を越えて～

これからの地域福祉は、行政や専門職だけで完結するものではありません。

地域住民、社会福祉事業者、NPO、企業、学生など、地域に関わるあらゆる主体が、地域を支える大切な「主役」です。

私たちは、「共創」の視点に立ち、住民一人ひとりを「支援の受け手」ではなく、共に課題を解決し、地域をつくる「パートナー」だと考えます。

年齢、国籍、障がいの有無、生活状況といった背景にかかわらず、誰もが自身の強みを生かした「役割」と「活躍の場」を持ち、尊厳を持って参加できる。そんな地域を、共に築いていきます。

いろいろな人の声<sup>!</sup>が混ざると、  
地域はもっとおもしろくなる。



# 市民が共に目指す 地域共生社会の姿



## 制度の狭間を埋める重層的な支援

～「縦割り」の支援から、「丸ごと」の支援へ～

私たちの抱える課題は、一人ひとり異なり、従来の制度の枠組みだけでは解決が難しくなっています。

だからこそ、公的な支援制度と、地域の「人の手・地域の目」を一体的に（丸ごと）つなぎ合わせ、切れ目のない支援を目指します。

地域の課題をみんなで共有し、制度の隙間で困っている人にもしっかりと手を差し伸べることで、誰もが地域の一員として、自分らしく、心豊かに暮らせる地域を実現します。

## デジタルを活かした顔の見えるコミュニティ

顔と顔を合わせる温かな交流を大切にしながら、ICTやデジタル技術を「つながりを補い、深める力」として活用します。

日々の暮らしの中での小さな気づきや変化を、必要な時にすぐ共有できる仕組みを整えます。

普段の見守りから災害時の安否確認まで、人の手とデジタル技術が重なり合うことで、地域の絆はよりしなやかで、頼もしく、温かいものへと育っていきます。

## 協働と共創の違い、定義について

比較項目	協働 (Collaboration)	共創 (Co-creation)
目指すもの	既存の課題解決、目標の達成	新しい価値の創造、未知の課題解決
ゴールの設定	事前に決まっている	取り組みながら形作っていく
関係性	役割分担	相互作用（化学反応）
プロセス	計画的、効率的	探索的、対話重視

## 地域共生の新しいモデルとは

これからは、決められた役割を果たす「協働」の関係から、多様な主体が対話し、共に新しい価値を生み出す「共創」のステージへと移行します。

地域の困りごとについて、一人ひとりが「自分ごと」として関心を持ち、制度の枠を超えて

地域全体で「丸ごと」支え合います。

この姿勢を土台にすることで、市内で芽生え始めた多様な活動を、一時的なイベントで終わらせず、地域にしっかり根付く持続可能な「文化」へと育てていきます。

これが、地域共生の新しいモデルです。

## 1. 地域福祉の動向と地域福祉活動計画の策定

## 変化する社会と、地域の新たな課題

近年、単身世帯の増加やライフスタイルの多様化、そしてデジタル化の進展に伴い、人々のつながり方や地域の在り方は大きな変容を遂げています。

これまで地域福祉の大きな要因とされてきた「高齢化の進行」に留まらず、現在は「自助力および地域のつながり（互助）の活力低下」という、より構造的な課題に直面しています。

こうした中で、住民の困りごとは複雑化・複合化しており、「8050問題」や「ヤングケアラー」、社会的孤立など、既存の制度だけでは対応が困難な「制度の狭間」にある課題が顕在化しています。

また、地域活動の担い手不足も深刻ですが、これは単に「参加者の減少」だけでなく、多忙な生活環境や価値観の変化により、従来型の組織活動に参加しにくいという背景があります。

このような「地域の機能低下」は、日常的な孤立を深めるだけでなく、頻発する自然災害時において、年齢、国籍、障がいの有無を問わず、支援を必要とするすべての住民の安否確認や避難支援を困難にするなど、地域の安全基盤をも揺るがす大きな不安要素となっています。

## 「地域住民等」による多角的な参画と「地域共生社会」の実現



<バリアフリー散歩>



<町社協活動情報交換会>

こうした時代の変化に対応するため、国は「地域共生社会」の実現を推進しています。

これは、社会福祉法第4条が示すとおり、住民一人ひとりに加え、ボランティア、地域活動者、さらには地域の事業者（企業・商店等）といった多様な主体が、それぞれの立場で地域課題を「我が事」として捉え、相互に支え合いながら自分らしく暮らせる社会を目指すものです。

年齢、国籍、障がいの有無、生活状況を問わず、すべての人が「地域の一員」として尊重される包括的なセーフティネットの構築が急務です。

従来の縦割り支援を超えた分野横断的な体制づくりとして、高齢者・障がい者・子どもへの支援はもとより、現在では「孤独・孤立対策」や外国籍住民への支援など、属性を問わない包括的なアプローチが強化されています。

令和6年度の制度改正では、地域福祉の基盤となる「生活支援体制整備事業」の機能強化が図られました。

これに伴い、生活支援コーディネーター（SC）やコミュニティソーシャルワーカー（CSW）が、「個別の困りごとへの伴走支援」と「課題解決に向けた社会資源の開発（地域づくり）」を一体的に推進できるよう、活動予算の拡充や体制整備が進められています。

また、多様な主体の参画を促す「住民参画・官民連携推進事業」の新設により、従来の枠組みに捉われない新たな担い手との協働が加速しています。

私たちは、専門職によるコーディネート機能の最大化と、地域住民等による主体的な活動を両輪とし、誰もが役割を持って輝ける地域共生社会の実現を推進していきます。

広がる交流と支え合い、多様な主体が参画する地域へ



ピンシャン元気体操  
やラジオ体操



ふれあい・いきいきサロン  
コミュニティカフェ



顔の見える関係

SNS/LINE活用  
地域コミュニケーションDX



情報交換・相談



地域の見守り  
災害時の包括的支援

地域においては、「ふれあい・いきいきサロン」や「ピンシャン元気体操」をはじめ、ラジオ体操やコミュニティカフェなど、楽しみながら健康づくりや多世代交流ができる場が次々と誕生しています。

ここでは、住民個人だけでなく、ボランティア、地域の活動者、NPOや地元の事業者など、多様な主体が、地域住民として関わり、情報交換や相談ができる、顔の見える関係が育まれています。

こうした直接顔を合わせる日常のつながりに加えて、SNSやLINEなどのデジタルツールを用いたオンライン上の交流（地域コミュニケーションのDX）を組み合わせることで、いざという時の迅速な情報共有や、日々のさりげない見守り活動を強化します。

これにより、平時からの多角的な「地域目」を



<災害ボランティアセンター設置訓練>

養い、災害時にも迅速に支え合える体制を推進します。とりわけ、災害時に不安を抱えやすい方への配慮を重視し、地域住民、関係団体、民間事業者が連携した包括的な支援体制の構築を図ります。

大規模災害時には、社協が設置する災害ボランティアセンターを軸に、自主防災会や協力企業等と連携し、デジタルの機動力も活かした迅速な支援を展開します。

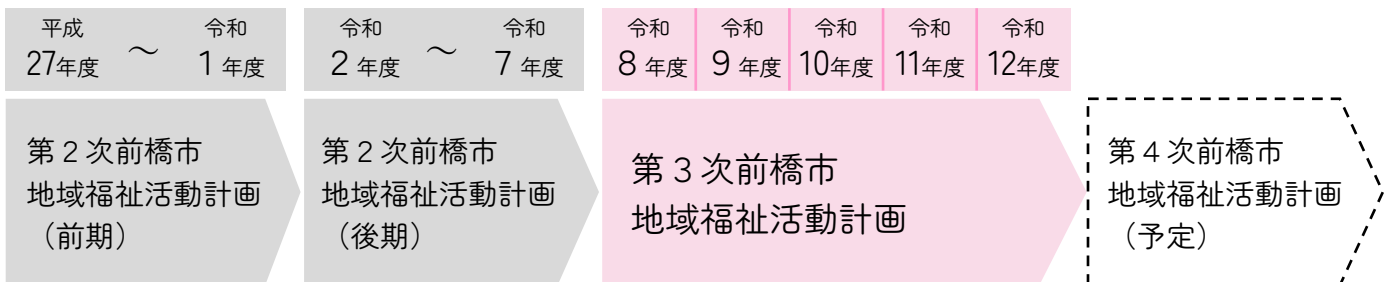
「第3次前橋市地域福祉活動計画」の期間について

本計画は、令和8(2026)年度から令和12(2030)年度までの5か年計画です。

前計画である「第2次前橋市地域福祉活動計画」は10か年計画（5年経過後に中間見直し、令和6年度に1年延長）でしたが、社会情勢の変化や市民

ニーズにより柔軟に対応するため、本計画より期間を5年間としました。

今後は、適切な進行管理と評価を通じて、次期計画への改善サイクルを確立していきます。



## 2. 地域福祉計画と地域福祉活動計画と地区別計画について

### 地域福祉計画について

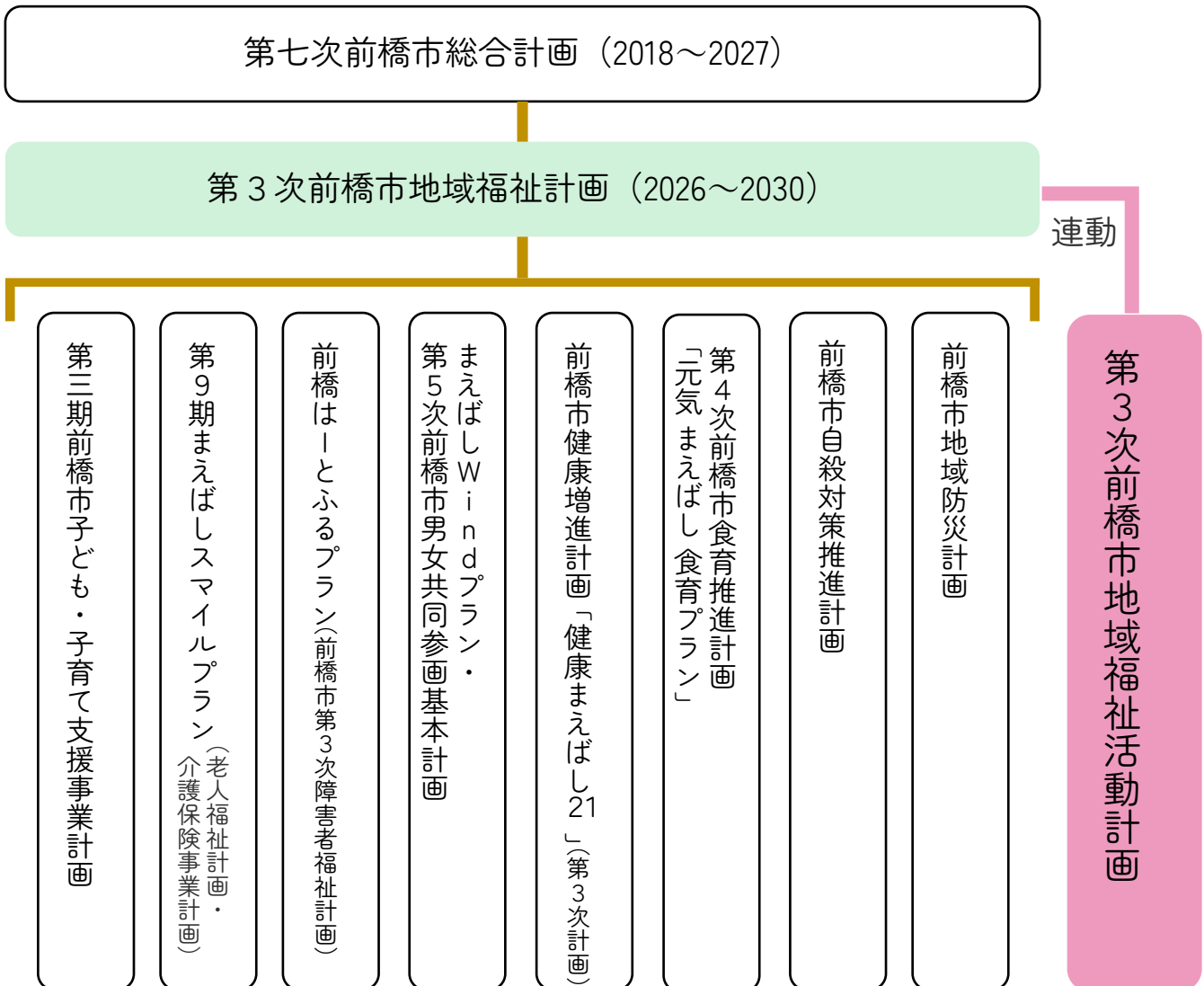
地域福祉計画は、社会福祉法第107条に基づき、住民参加のもと、前橋市が策定する計画です。

この計画は、行政の立場から地域福祉の政策や制度などを充実させるとともに、地域での支え合いが円滑に進むための「仕組み」や「基盤」を整備することを目的としています。

また、まえばしスマイルプラン（老人福祉計画・介護保険事業計画）、前橋はーとふるプラン（前橋市障がい者福祉計画）、子ども・子育て支援事業計

画などの市の他の福祉分野の個別計画の上位計画として位置づけられ、地域共生社会の実現に向けた包括的な理念や方向性を示す「総合的な指針」としての性格を持っています。

地域福祉活動計画は、地域福祉計画と基本理念を共有し、連動しながら、住民が主体となって地域の生活課題を明らかにし、その解決に向けた具体的な活動や取組を示す「実践的な計画」となっています。



※ 第3次前橋市地域福祉計画より抜粋

## 地域福祉活動計画について

「地域福祉活動計画」とは、私たちが暮らすこの町を、もっと安心して住み続けられる場所にするための「住民による、住民のためのアクションプラン」です。

### 計画の役割

地域福祉活動計画は、行政が決めるものではなく、「地域住民、ボランティア、関係団体、市社協」が一緒になって作る計画です。

この計画は、行政が策定する「地域福祉計画」と相互に作用し合う関係にあります。

市が「制度による公助・共助の基盤」を整える一方で、本計画は制度だけでは対応が難しい

多様な課題に対し、地域ならではの柔軟な「自助・互助の活動」で応えます。

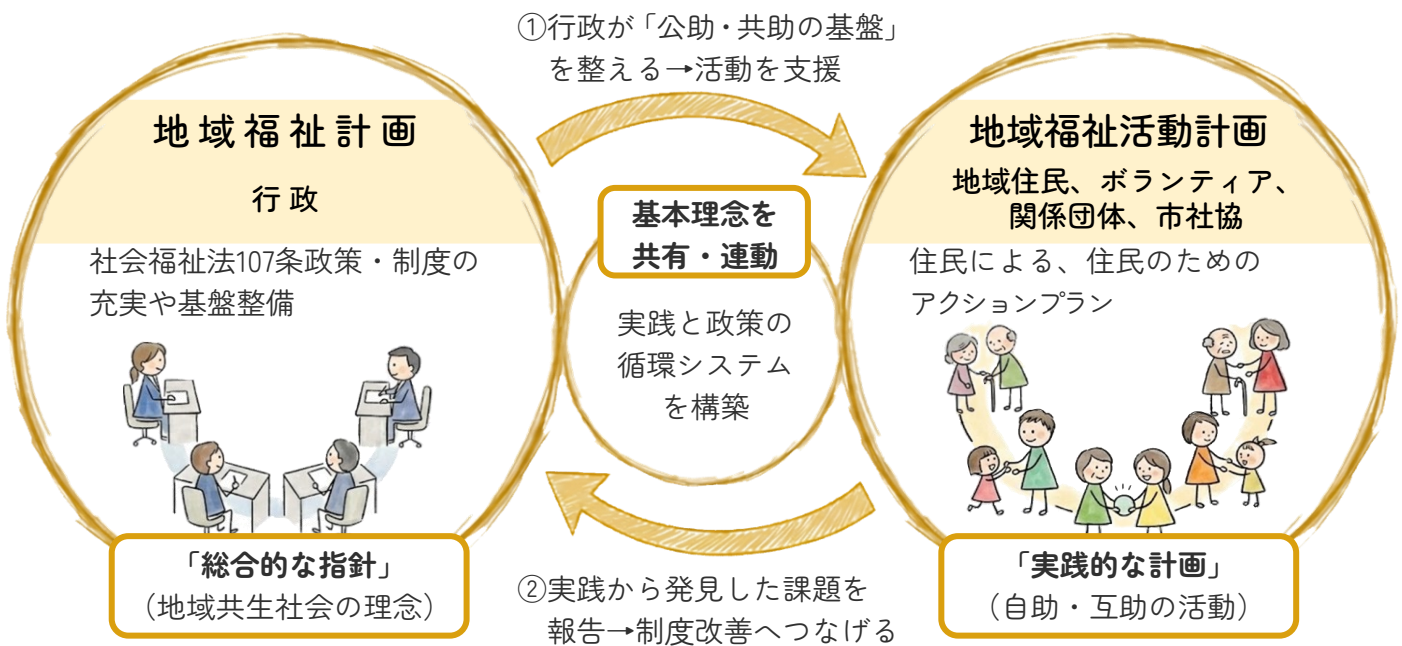
活動を通じて発見された新たな地域課題を行政の施策へフィードバックし、制度改善につなげるという「実践と政策の循環システム」を構築することで、公的なサービスだけでは手の届かない、きめ細やかな福祉課題の解決を目指します。

### 計画の内容

地域福祉活動計画は、主に以下の4つの内容で構成されます。

1. 基本理念と活動目標
2. 重点目標
3. 地域の現状と課題
4. 基本方針と具体的な活動（個人ができること・地域でできること、市社協の取り組み）

## 地域福祉計画と地域福祉活動計画の関係性



## 地区別計画について

地区別計画は、地域住民が主役となって、その地区の未来を描くための行動計画です。

地域の良いところや困りごとについて住民同士で話し合い、それを解決し、より良いまちにするための具体的な取り組みを計画としてまとめます。

### 計画の役割

この計画の中心は、住民による地域に根ざした活動を効果的に進めることです。

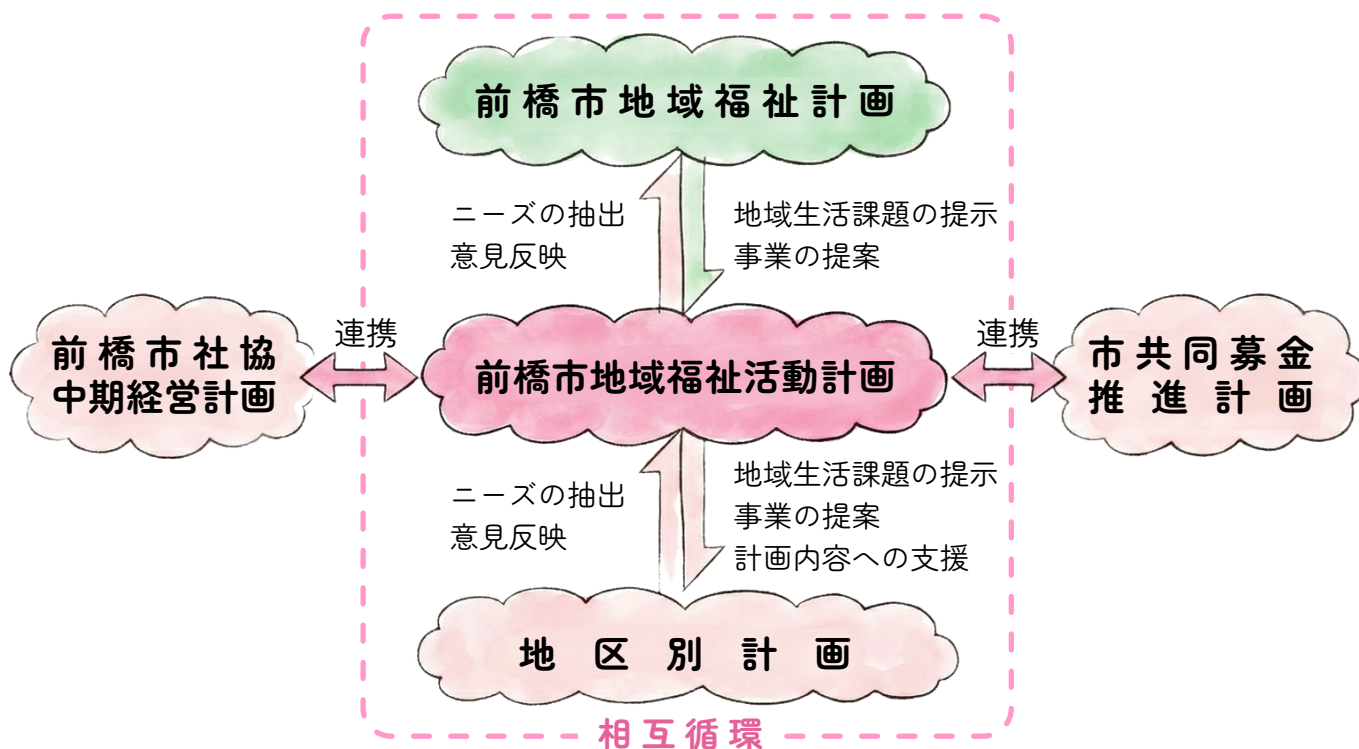
地区社会福祉協議会（地区社協）が中心となり、住民やさまざまな団体と協力して、この計画を作り、進めていきます。

### 計画の内容

地区別計画は、主に以下の3つの内容で構成されます。

1. スローガンと目指す地区の将来像
2. 地区の情報と課題
3. 地区で取り組むこと

## それぞれの計画の関係性



図のとおり、地区別計画で抽出された、地区の具体的なニーズや課題を、市全体の活動計画に反映させ、そして、市社協は地区別計画にある活動が進められるように支援するというまさに、双方向の関係となります。

これに加え、行政の地域福祉計画が大きな方

向性を示し、社協経営計画と共同募金計画が組織・財政面から基盤を支えます。

行政・社協・地域住民等がそれぞれの役割を果たしながら、5つの計画が相互に連動・循環することで、「現場の声」を「市全体の力」に変え、再び地域へと還元していきいきます。

### 前橋市社協中期経営計画・市共同募金推進計画と地域福祉活動計画との関係

「前橋市地域福祉活動計画」を円滑に推進していくために、社協中期経営計画が「人・組織体制」を、市共同募金推進計画が「活動資金」を支えるという形で、三位一体となって連携する体制を構築しています。

### 3. 地域（圏域）の捉え方

#### 地域福祉を推進する「活動の範囲（圏域）」について

住民が主役の地域福祉を進めるには、地域にある資源や人材などをうまく連携させ、実際に活動につなげていくことが大切です。このため、地域住民が安心して暮らし、参加しやすい活動の場を広げることを基本に、市民活動の単位となる活動の範囲（圏域）を定めます。

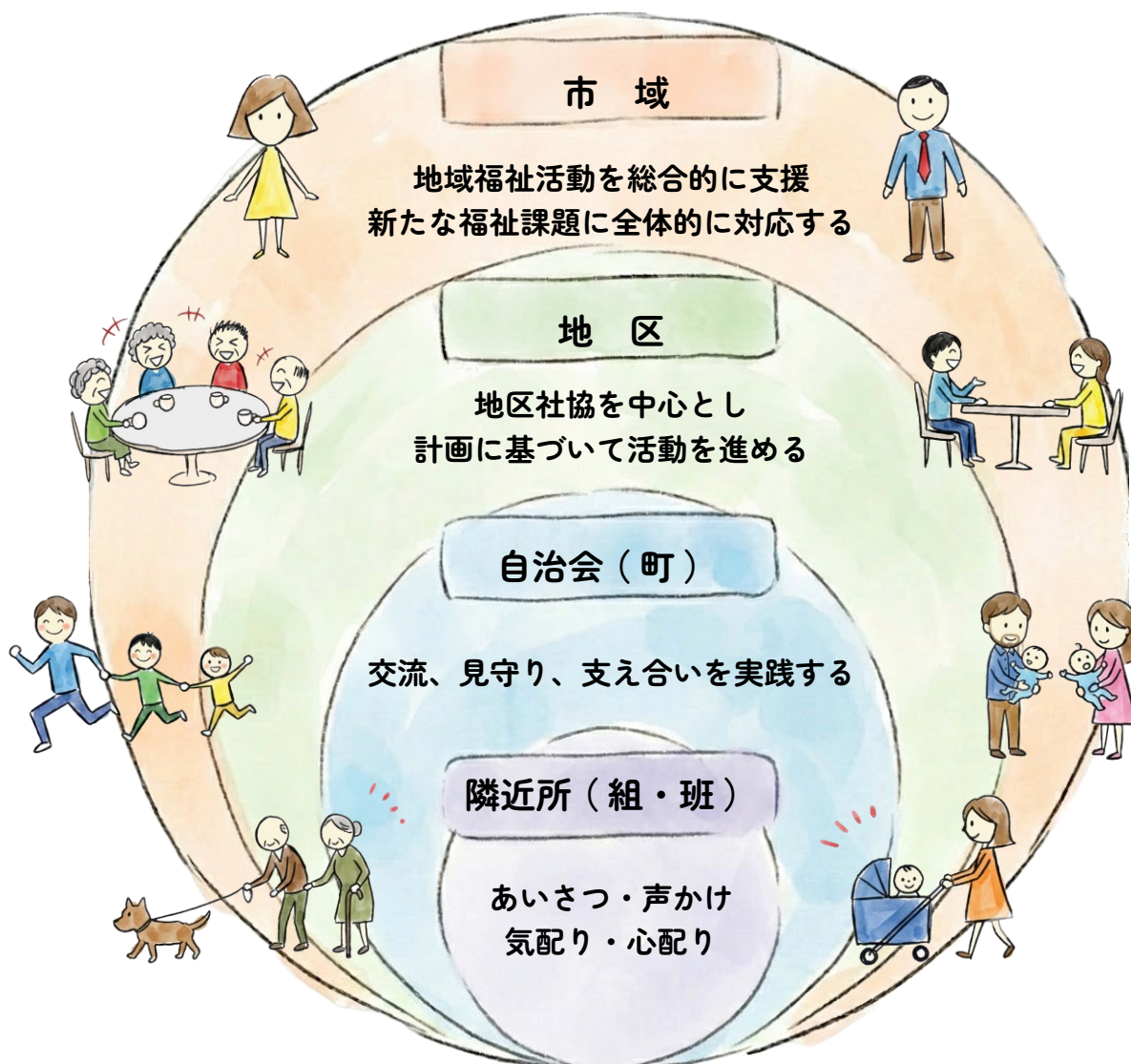
#### 地域福祉推進の圏域設定の考え方 ～「地区」と「自治会」、それぞれの役割～

##### 大きな活動の拠点となる「地区」

組織的な活動の基盤となる単位です。  
地域全体の課題を話し合ったり、大きなイベントを行ったりする際の活動エリアとなります。

##### 日々の暮らしの現場となる「自治会（町）」

日々の「交流・見守り・支え合い」や、身近な困りごとに気づくための活動を行う、一番身近なエリアです。



## 4. 第2次前橋市地域福祉活動計画の評価

### 第2次前橋市地域福祉活動計画について



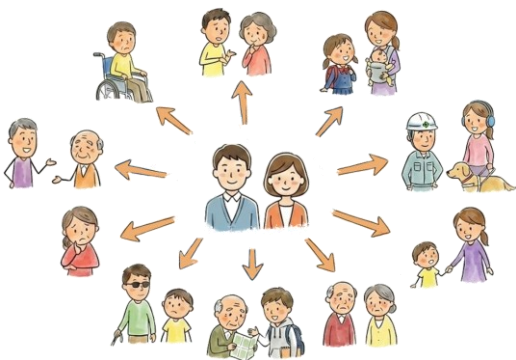

平成27年に策定された「第2次前橋市地域福祉活動計画」は、10か年の計画です。

令和元年度には、本市の福祉を取り巻く環境や社会状況の変化に対応すべく中間見直しを行い、「つながって支え合う地域共生のまちまえばし」

へと基本理念を改定いたしました。

本計画が最終年度を迎える令和8年度において、これまでの取り組みに対する評価・検証を行いました。その評価結果は以下のとおりです。

### 第2次前橋市地域福祉活動計画の評価

基本目標	主な実績	今後の課題
<p>地域で支え合い安全・安心・健康で暮らすまえばし</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふれあい・いきいきサロンの再開や多様な通いの場の創出により、介護予防と健康づくりが地域に広がってきました。</li> <li>・見守り活動の拡充や防災意識の向上も進み、地域全体の支え合い機運が高まりました。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の担い手不足や参加層の固定化が課題です。</li> <li>・若年層や多様な世代の参画促進、地域活動の持続可能な仕組みづくりが求められます。</li> </ul> 
<p>困りごとを共有しみんなで解決するまえばし</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活支援コーディネーター（SC）やコミュニティソーシャルワーカー（CSW）の配置により、地域の相談支援体制が整備され、複合的課題を抱える住民への支援が充実しました。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関間の連携強化や支援の継続性確保が課題です。</li> <li>・地域と専門職の協働による包括的な支援体制づくりが今後必要です。</li> </ul> 

みんなで  
つながり  
地域づく  
りを  
進める  
まえばし

- ・町社協の設立などにより、地域主体の福祉活動が広がり、多様な人材が関わる土壌が形成されました。
- ・町単位での見守り体制や交流の場づくりが進んだことは大きな成果です。
- ・企業等の多様な主体との協働も大きく前進しました。



- ・地域住民と多様な主体による「地域包括的な運営体制」の確立が求められます。
- ・複雑化する地域課題に対し、分野を超えた連携によって新たな解決策を生み出す「共創による課題解決の推進」が求められます。



### 第3次前橋市地域福祉活動計画に向けて

第2次前橋市地域福祉活動計画における10年間の取り組みでは、地域のつながりの再構築や、住民主体による福祉活動の定着が進み、地域での支え合いや社会参加支援において一定の成果をあげてきました。

しかし、令和2年からのコロナ禍は、地域福祉活動に大きな制約をもたらしました。

活動の中止や縮小を余儀なくされましたが、そうした困難な状況においても、感染対策を講じながら工夫を凝らした活動が各地で展開されたことは、改めて「つながり」の大切さと、住民主体による活動の必要性を認識させる機会となりました。

一方で、活動の再開に伴い、新たな課題も浮き彫りとなっています。活動の担い手不足や参加層の固定化に加え、社会構造の変化により、従来の地縁組織だけでは対応しきれない複雑化・多様化した地域課題が増加しています。

これらに対応するためには、若年層や多様な世代の参画促進による地域活動の持続可能な仕組みづくりが急務です。

また、より困難な課題を抱える人々を孤立させないよう、関係機関間の連携強化や支援の継続性確保、さらには地域と専門職の協働による包括的な支援体制づくりも求められています。

### 「目指す姿」から、「実践する活動」へ



第2次活動計画では、「支え合い」や「つながり」といった、私たちが目指すべき地域の「姿」を共有することに重点を置いてきました。

今回の第3次活動計画では、そこから一歩進み、理想の姿を実現するために「具体的に何をす

るのか」という「活動」に焦点を当てた計画へと発展させています。

そして、これらの活動を推進するための柱として、活動目標を「地域づくり」「参加支援」「相談支援」「生活支援」の4つに整理しています。

## 5. 計画を推進する主体

地域福祉の推進においては、様々な立場の人々が連携することが不可欠です。

多様な主体がそれぞれの強みを活かしながら、役割分担と協働を通じて、複雑化・多様化する地域課題に対応していくことが求められています。

また、住民一人ひとりが地域の課題を「自分ごと」として捉え、積極的に関わる意識を持つことが、

支え合いの仕組みを地域全体で築くための重要な鍵となります。

こうした取組を通じて、持続可能な地域福祉の実現が可能となります。

次に計画を推進する主体と担うべき役割・あり方を示します。

### 地域住民組織

自治会、民生委員・児童委員、老人クラブ、子ども会、町社協等は、地域の絆を深め、参加しやすい環境を整えながら、地域福祉活動を推進します。



### 市民

子どもから大人まで全ての市民が、地域共生社会の実現を意識し、互いに思いやりを持ち、社会とのつながりを維持・構築するよう努めていきます。



### 地区社協

地域住民組織と連携し、地域の生活課題を発見・共有し、協働してその解決に取り組む役割を担います。



### 市社協

地域福祉ネットワークの核として、地域福祉活動計画の具体化と先駆的な事業の企画・提案を行い、地域福祉の推進を担います。



### 行政

地域福祉の推進に向けた仕組みを構築し、幅広いセーフティネット機能を整備するとともに、各主体と協働して必要な支援を行います。



## 協働・共創

### NPO・ボランティア等

それぞれの専門性を活かし、他の主体と協働しながら、地域の福祉課題に柔軟に対応していきます。



### 教育機関等

専門知識を持つ人材の育成に加え、地域と連携して生涯学習や防災活動を推進するとともに、学校教育においても福祉教育を通じて、地域の次世代の担い手を育成します。



### 社会福祉法人・福祉施設等

豊富な人材や専門的なノウハウを地域に向けて発揮し、身近で開かれた拠点として、地域の福祉課題に対応します。



### 地域の企業・事業所

企業の社会的活動（CSR＝社会的責任）として地域福祉に参画し、雇用の安定や多様な働き方の推進を通じて、地域の福祉力向上に貢献します。



### 保健医療機関等

市民の健康と生命を守るため、適切な医療を提供するとともに、医療・介護・福祉の連携を進め、地域の支援体制を強化します。



※ 第3次前橋市地域福祉計画を参考

## ～あなたの町の身近な相談役～ 民生委員・児童委員をご存知ですか？

地域の人々と笑顔をつなぐ身近なパートナー、  
民生委員・児童委員についてご紹介します。



### そもそも「民生委員・児童委員」 って、どんな人？

一言でいうと、「地域に暮らす、あなたの味方」  
です。

普段は同じ地域に暮らす「ご近所さん」として  
ボランティアの心で活動していますが、実は厚生  
労働大臣から委嘱された「非常勤の特別職地方公  
務員」という法的な身分を持っています。

全員が「児童委員」も兼ねており、赤ちゃんか  
らお年寄りまで、生活の中で「ちょっと困ったな」  
と思ったときの、公的な信頼と地域の温かさを兼  
ね備えた身近な「相談窓口」となります。

また、子どもの福祉機関や学校との連携を主  
として担当する主任児童委員も民生委員です。



### 町の民生委員・児童委員として

民生委員は、あなたと同じ町に住む「ご近所  
さん」。日頃の声かけや見守りを行ったり、町  
ごとのサロンや見守り活動、納涼祭といった地  
域の行事に積極的に顔を出し、「顔の見える関  
係づくり」を何より大切にしています。

一番の役割は、身近な相談役として話を「聴  
く」こと。「実は困ってて…」という小さな  
SOSも逃さず、公務員としての守秘義務のもと  
で、あなたの暮らしにそっと寄り添います。

### 住民の「困った！」をキャッチしたら？

民生委員は、困りごとを直接解決するのでは  
なく、専門機関への「つなぎ役」です。お話を  
伺い、最適な支援先への橋渡しを行います。

また、住民の困りごとを、町で解決できるよ  
う話し合いを提案する「まちづくりの提案役」  
でもあります。

あなたの悩みは、地域の課題か  
もしれません。一人で抱え込まず、  
気軽にご相談ください。



### 地区の民生委員・児童委員として

民生委員は、「単位民児協」というチームで  
活動しています。毎月の定例会で、委員同士の  
連携を図るとともに、問題を抱える世帯への支  
援方法などについて知恵を出し合い、一人では  
難しい問題もチームでサポートします。

また、ふれあいの広場や文化祭などの地区の  
行事を一緒に盛り上げたり、地区に応じて、子育  
てサロンや地域食堂を主催することもあります。

研修で常に最新の知識を学びながら、安心し  
て暮らせるようにまちを支える、頼もしい地域  
の「応援団」です。

### 町で民生委員さんを見かけたら

100年以上続く民生委員制度は、  
地域を見守り続けてきた信頼の証です。

「何かあってから」ではなく、ご近所や行事で  
活躍している民生委員を見かけたら、ぜひ「こ  
んにちは！」と声をかけてみてください。

民生委員は、同じ町に住む仲間として「一緒  
に考え、一緒に歩く」存在。顔なじみになって  
おくことで、もしもの時の大きな安心につなが  
ります。

### 民生委員を支える社協の役割

市社協は、市の民生委員・児童委員連絡協議  
会の事務局を担い、研修や運営を通じて日々の  
活動を支えています。

また、地区担当者は現場での悩みを受け止め  
る相談先であり、地域課題に共に取り組むパー  
トナーでもあります。

このように多面的に、民生委員の活動を支え  
ています。



Column  
(コラム)

# 前橋市老人「にこっと」へようこそ!! 福祉センター



健康づくり、仲間づくり、趣味や学びに。  
あなたの「やりたい」が見つかる場所です。

前橋市社会福祉協議会が運営する、地域の皆さまのための施設です。  
「来た人が笑顔になれるように」という願いを込めて「にこっと」という愛称で親しまれています。

楽しみ方いろいろ! 「にこっと」でできること

## 健康づくり

### お風呂でリラックス

広々としたお風呂で、心も体もリフレッシュできます。



### 体操やトレーニング

ピラティスやチェアエクササイズなどの体操教室、トレーニング機器で体を動かせます。



### 健康相談・測定

看護師による血圧測定や健康相談、理学療法士による運動療法、骨密度や体成分測定会なども実施しています。

## 趣味・生きがい

### 囲碁・将棋・ビリヤード

仲間と一緒に囲碁や将棋、ビリヤードなどを楽しめます。



### 音楽・ダンス・カラオケ

歌声広場でレコードを聴きながら歌ったり、昭和歌謡で踊るダンス教室、カラオケが楽しめます。



### ものづくり・手芸

写真フレーム作りや編み物など、様々な手芸教室を開催しています。



## 仲間づくり・交流

### 大広間で談笑

大広間で親しい友人とお茶を飲みながら会話を楽しめます。



### イベント・演奏会

季節のつどいや高校生による演奏会など、多彩なイベントや世代間交流も行っています。

## 学び・相談

### 各種講座や相談会

教養講座や高齢者ドライバー向け講座などの出前講座、専門家による心配ごと相談も定期的に設けています。



## ご利用案内



前橋市にお住まいの  
**65歳以上**の方は  
無料です。

市役所または各にこっとで発行する「無料利用券」をご提示ください。65歳未満の方や市外の方もご利用いただけます(有料)。

### 開館時間・休館日

施設によって異なります。詳細は各にこっとへお問い合わせください。  
(巡回バスも利用できます※一部予約制)

### 有料利用の場合の料金表(参考)

区分	市内個人	市外の方
老人(60歳~64歳)	100円	200円
一般(16歳~59歳)	150円	300円
子供(4歳~15歳)	100円	200円

### 開館時間・休館日

お近くの「にこっと」へお気軽にどうぞ

しきしま	233-2121
ひろせ	261-0880
おおとも	252-3077
かすかわ	285-3801
ふじみ	288-6113

## 第2章 地区別計画について

まちの数だけ、暮らしの「色」があります。

古い歴史が息づくまち、新しい家族が増えているまち、自然に囲まれたのどかなまち。  
前橋市内の23地区には、それぞれ違った顔があり、それぞれが抱える「課題」と、それを乗り越える「知恵」があります。

この章では、私たちの日々の暮らしがある「足元」に視点を移します。  
自分の住むまちでは、どんな想いが紡がれているのか。そして隣のまちでは、どんな工夫が生まれているのか。  
23通りの物語から、私たちの地域の「現在地」を見つめてみましょう。



# 地区別計画について

## 1. 各地区福祉活動の経過と今後の進め方

### 各地区福祉活動のこれまでの歩み

#### 地区社協を中心とした基盤づくり

本市における各地区福祉活動は、市内を23地区で分けして組織される「地区社会福祉協議会（地区社協）」が中心となり推進されてきました。

特に平成28年より、市委託事業である「生活支援体制整備事業」が始まったことが、活動活性化の大きな推進力となりました。

現在、市内すべての地区で、地区社協による広域的な活動として、課題解決に向けた研修会の開催、広報活動やネットワークづくりなどが行われ、地区の特長を生かした「交流・見守り・支え合い」が活発に進んでいます。

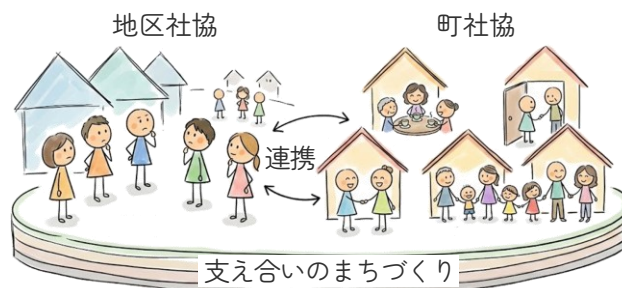
#### より身近な生活課題の対応に向けた「町社協」の本格実施

一方で、地区単位の広域的な活動だけでは、住民一人ひとりのより身近な生活課題や活動につながりづらいという課題も見えてきました。

そこで、最も身近な地域である自治会（町）単位での活動を強化するため、令和2年度より「町社協」のモデル事業を開始し、効果検証を経て、令和5年度からは本格実施へと移行しました。

本格始動した町社協では、サロンや見守りをはじめ、住民同士の顔がつながり合う、きめ細かな実践が行われています。

地区と町が連携し、重層的なセーフティネットの機能を果たすことで、「支え合いのまちづくり」の確かな土台となっています。



### 各地区別計画の構成と策定の視点

#### 日常の活動から声を拾い上げる

各地区の計画策定にあたっては、決して一律の手法をとるのではなく、それぞれの地区の風土や実情に合わせた多様なアプローチを大切にしました。形式にとらわれず、様々な機会を通じて、そこに暮らす人々の「生活課題」や「生の声」を丁寧に拾い集め、この計画を作り上げました。

住民の声を聴く手法は、地区によって様々です。ある地区では、民生委員・児童委員による日々の見守り訪問の中で、独り暮らし高齢者の不安を汲み取りました。



またある地区では、地区行事やイベントの場を活用して参加者の声を聞いたり、「ふれあいサロン」で交わされる何気ない会話の中から、生活の中にある困りごとやニーズを拾い上げました。このように、形式的な調査だけでなく、顔の見える関係性を活かし、暮らしの中にある「本当の思い」を集めることに注力しました。

## これまでの地区別計画の振り返りと住民の声を基に、新たな計画づくり

こうして集まった多くの声を基に、地区社協の役員や関係団体が集まり、協議を重ねました。

新しい計画をつくるにあたり、「第2次前橋市地域福祉活動計画（後期）」における各地区別計画の振り返りも行われました。

これまでの活動で地区がどう変化したのか、何が達成でき、何が課題として残ったのか。

過去の取り組みをしっかりと見つめ直し、議論を深めました。

そこで確認されたこれまでの実績に、住民の新たな「つぶやき」や「気づき」を掛け合わせ、地域全体の課題として再整理しました。

自分たちに今、何ができるのかを改めて検討し、各地区独自の活動計画として作り上げました。

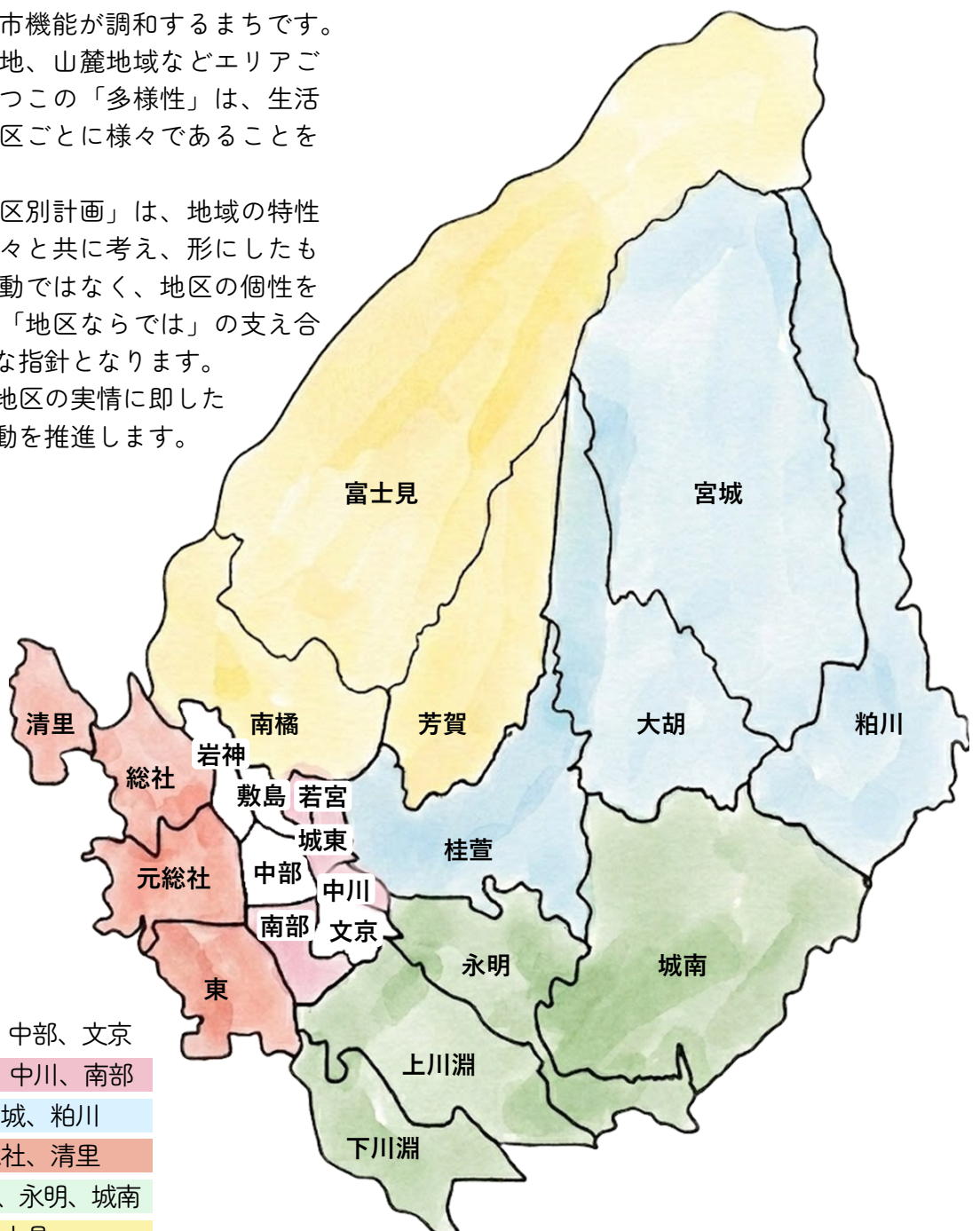
## 23地区の地域特性を活かして ～赤城の山頂から街中まで～

前橋市は、赤城山の山頂から利根川に至るまで、豊かな自然と都市機能が調和するまちです。

中心市街地、住宅地、山麓地域などエリアごとに異なる表情を持つこの「多様性」は、生活スタイルや課題も地区ごとに様々であることを意味します。

こうした中、「地区別計画」は、地域の特性を活かし、住民の方々と共に考え、形にしたものです。画一的な活動ではなく、地区の個性を尊重し、住民主体で「地区ならではの」の支え合いを育むための重要な指針となります。

本計画を基盤に、地区の実情に即したきめ細やかな福祉活動を推進します。



### ブロック分け

- ・中央-1：岩神、敷島、中部、文京
- ・中央-2：若宮、城東、中川、南部
- ・東：桂萱、大胡、宮城、粕川
- ・西：東、元総社、総社、清里
- ・南：上川淵、下川淵、永明、城南
- ・北：芳賀、南橋、富士見

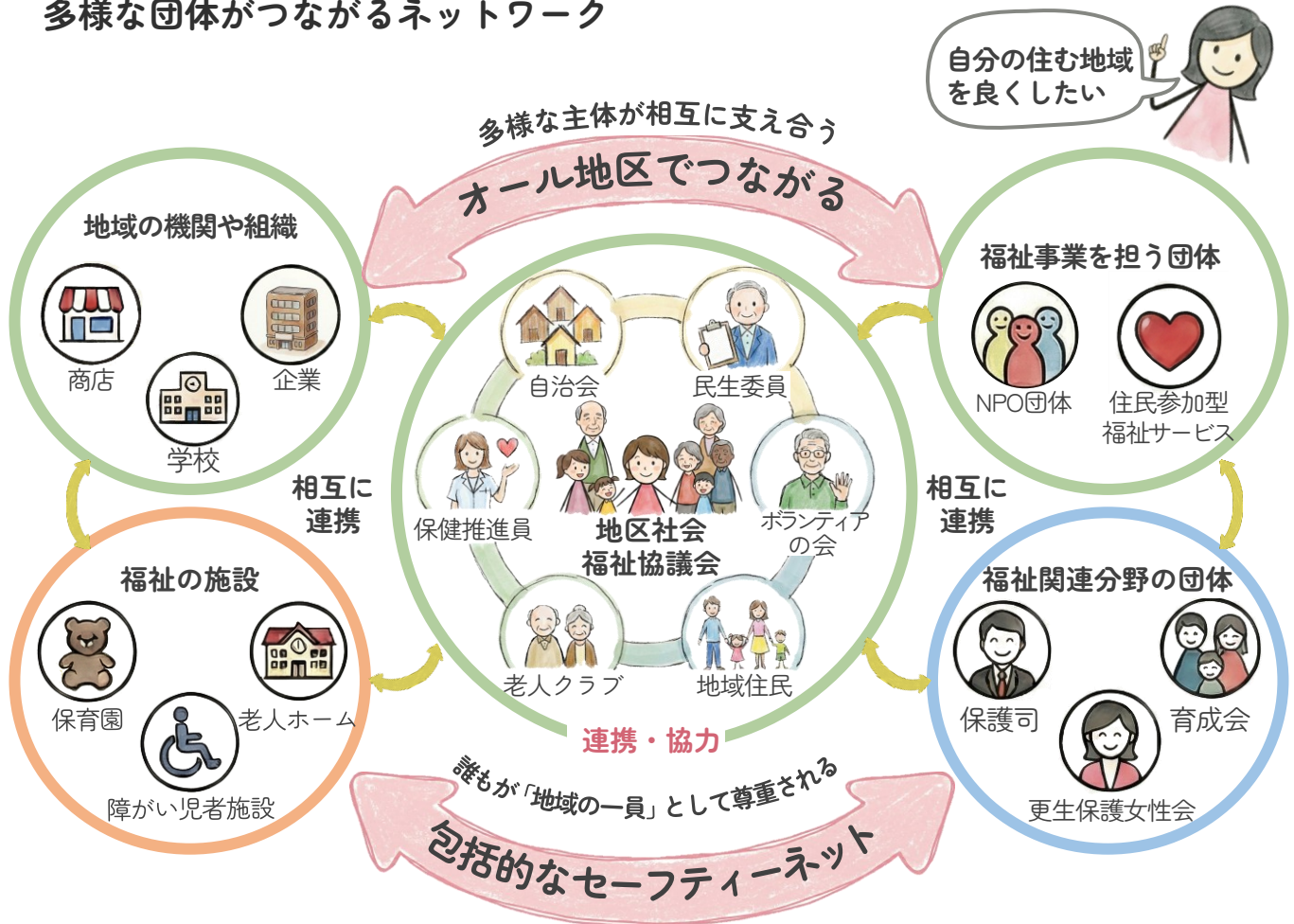
## 地区社会福祉協議会（地区社協）の役割

### 地区社協とは

地区社協は、市内23区に組織された、住民主体の福祉団体です。地区全体を俯瞰し、「自分の住む地域を良くしたい」という住民の想いを結集させ、地域福祉活動を担っています。

また、行政や市社協と連携しながら、地域の特性に合わせた福祉のまちづくりを企画・推進の役割を担っています。

### 多様な団体がつながるネットワーク



地区社協の最大の特徴は、上のイラストが示すように、地域に関わるあらゆる組織や団体がつながり合っている点にあります。

その中心では、地域住民と最も身近に関わる自治会や民生委員、老人クラブ、ボランティアの会、保健推進員などが連携しています。

さらにその輪は外側へと広がり、老人ホームや保育園などの「福祉施設」、学校やPTAといった「関連分野の団体」、NPOなどの「福祉事業を担

う団体」、そして地域の企業や商店、消防組織に至るまで、多岐にわたる関係者と協力体制を築いています。

地区社協は、これら多様な組織を基盤として互いに協力し合い、地域福祉活動を推進しています。

特定の分野を超えて「オール地区」でつながる多様なネットワークこそが、複雑化する地区の課題を解決する大きな力となっています。

## 「面」で支える広域的な活動と後方支援

地区社協は、個別の見守りといった「点」の活動は町社協等の小地域に委ね、それらを包み込む地区全体を「面」で支える役割を担います。

具体的には、単一の町では実施が難しい研修や視察、情報交換会のほか、地区全体の交流イベント（ふれあいの広場等）や広報活動など、スケールメリットを活かした事業を展開します。

あわせて、最前線で活動する「自治会」や「町社協」が動きやすい環境を整えることも重要な役割です。

活動資金の助成や運営ノウハウの提供、機材の貸出など、組織的な後方支援（バックアップ）を行います。

## 計画推進における組織としてのコーディネート機能

今回作成された「地区別計画」を実行に移す中心となるのが地区社協です。

「目指す地区の将来像」の実現には、多くの団体の力が必要です。

そこで地区社協は、特定の個人に依存せず、「組織」として各団体をつなぐコーディネート機能を果たします。互いの強みを活かした連携

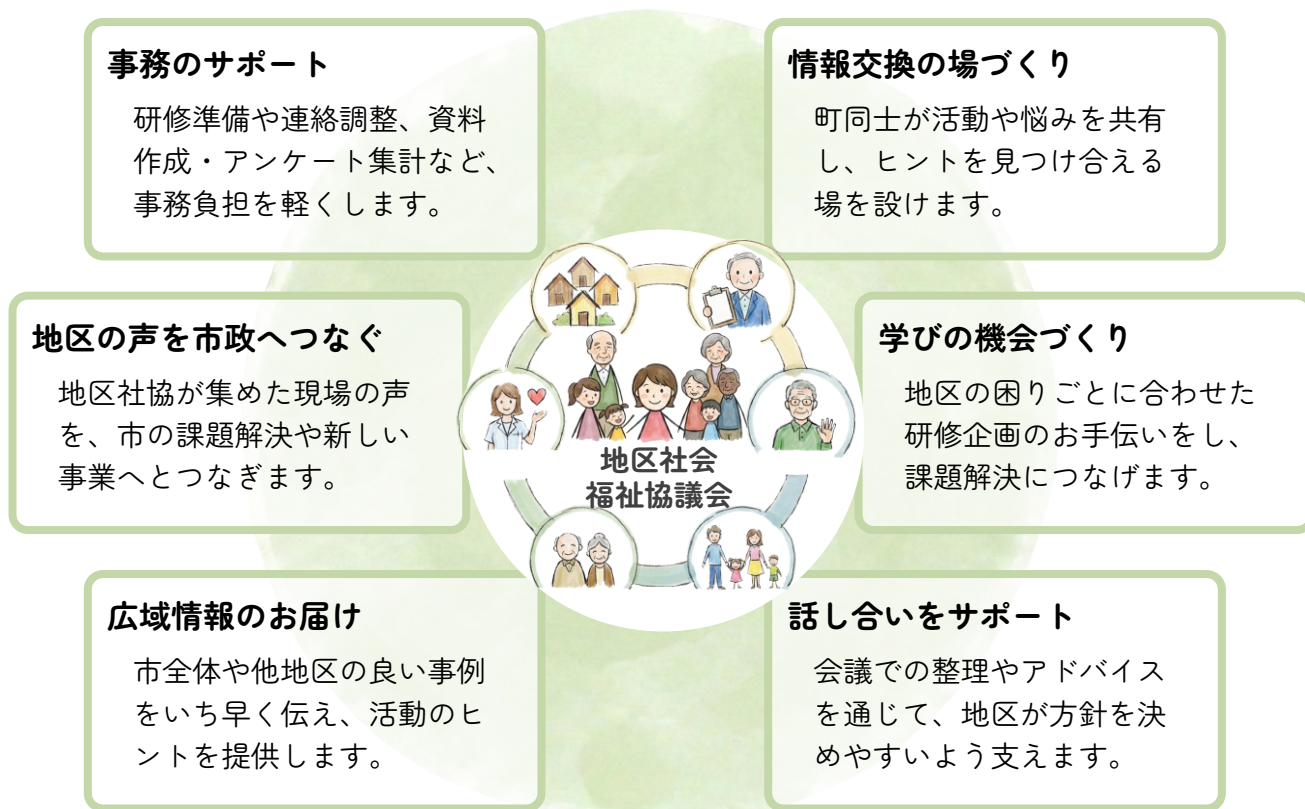
が生まれるよう、組織的なバックアップ体制で活動を支えます。

具体的には、定期会議での情報共有や軌道修正を組織的に行います。

計画推進のプラットフォーム（基盤）として、地区全体を面で支えます。

## 市社協は地区社協をサポートします

地区担当者が、地区社協の多様な活動の実施を支援します。



## 自治会と町社協が担う活動と役割

### 自治会活動の多様化と「福祉」の重要性

自治会は、防災・防犯・環境美化・親睦行事など、日常生活のあらゆる分野を担う、住民にとって最も身近で重要な組織です。

その活動の一つに「福祉」がありますが、少子高齢化が進む現代、独り暮らし高齢者の見守りや閉じこもりがちの方への支援など、地域福祉に求められる役割は年々大きく、かつ複雑になっています。

多岐にわたる業務を抱える自治会役員だけで、きめ細かな福祉活動の継続は、負担が大きく困難になりつつあります。

そこで、自治会活動から福祉分野を切り出し、その実践を町社協へ託すことで、役員の負担を分散し、持続可能な自治会運営を目指すことができます。

こうした観点から現在、各自治会の規模や実情に合わせ、町社協の設置を含めた新たな福祉の取り組みについて、検討が進められています。



### 自治会と町社協、それぞれの役割

自治会は、町の福祉活動の母体であり、活動全体の「基盤」となります。

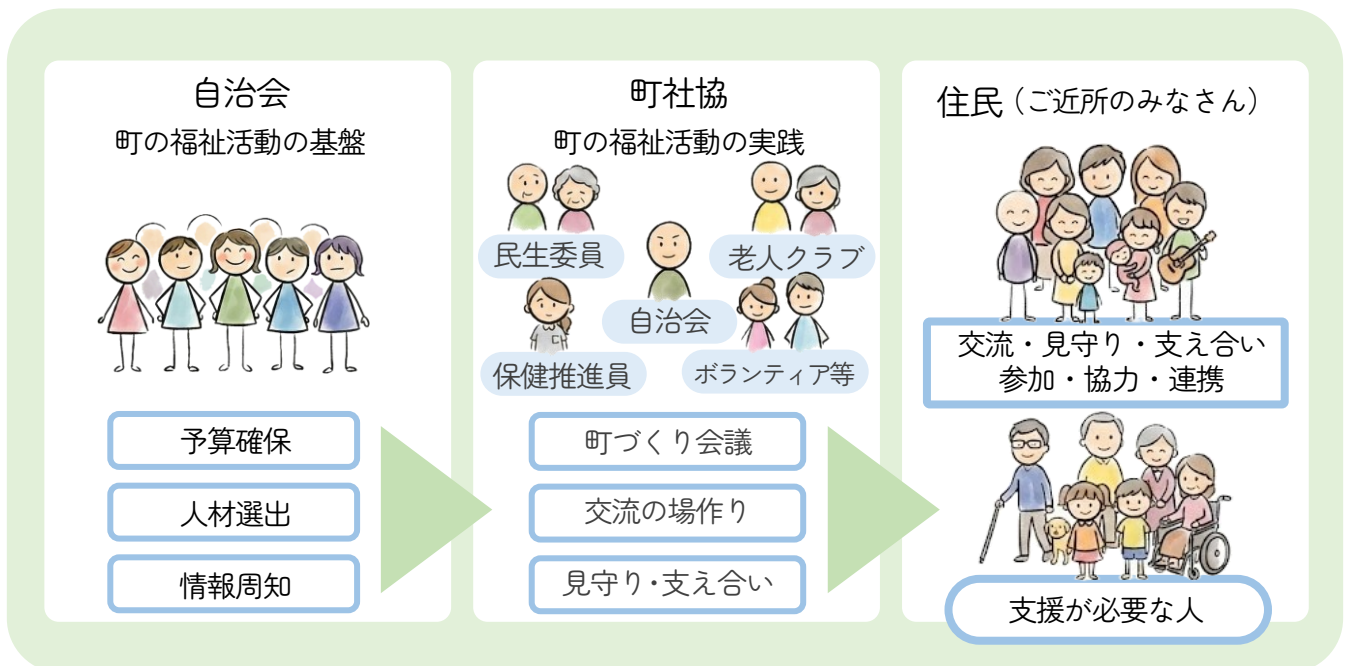
町社協が円滑に活動できるよう、予算の確保や人材の選出、回覧板等による情報の周知など、組織的なバックアップを行います。

これを受けて町社協は、具体的な福祉活動を担います。サロンによる「交流の場づくり」や、近隣での「見守り活動」など、一人ひとりの顔が見える距離感で、きめ細かな支援を実践します。

また、ボランティアや役員経験者などが任期にとらわれず長く携わることができるため、継続的な関係づくりが可能となり、住民の小さな変化に気づく役割も果たしています。



### 自治会と町社協の役割と連携図



## 町社協を設立することで期待される3つのポイント

### 活動の継続性

自治会役員のお多くは1～2年で交代しますが、町社協は比較的長く携わるメンバーで構成されます。そのため、住民と顔なじみの関係を築きやすく、安心感のある息の長い支援が可能になります。

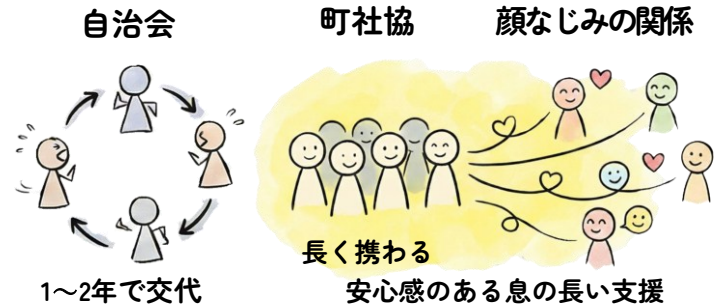
### 町の福祉の充実

福祉に特化した組織であるため、多様な人が関わりやすく、参加の呼びかけもしやすくなります。

サロンや見守りに限らず、住民ニーズに合わせた自由な発想で、楽しく活動を展開できます。

### 自治会の負担軽減

役割分担を明確にすることで、多忙な自治会役員の負担を分散・軽減できます。町社協が実践活動を担うことで、町の支え合いを無理なく継続し、未来へつないでいくことができます。



## 町社協が目指す3つのしくみづくり

### 関係機関の連携強化

自治会や民生委員など、町を支える関係者が定期的に集まり、情報交換できる場を設けます。日頃から活動や課題を共有し、いざという時に協力し合える「顔の見える関係づくり」を構築します。

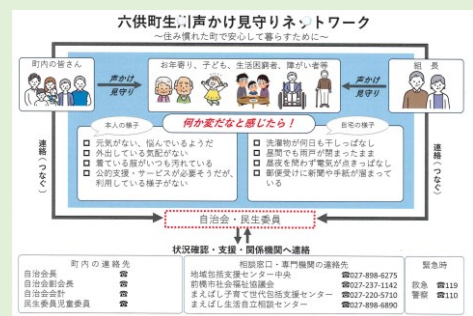


<新堀町支え合い会議>

### 見守り体制の整備

町で、困っている人を見かけた際の対応をあらかじめ決めておき、スムーズに専門機関へつなげられるよう、相談窓口を明確にし、町全体に周知します。

このような早期発見・迅速な対応を可能にする「見守りネットワーク」を構築します。



<六供町生川見守りネットワーク図>

### 積極的な広報と参加促進

広報紙やホームページやSNS、町のイベントなどを活用し、情報を住民に届けます。

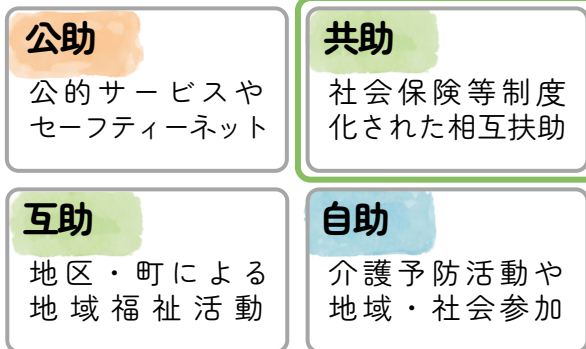
活動への理解と共感を育み、誰もが自然に参加できる環境を整えることで、「活動の輪」を大きく広げます。



<龍蔵寺町 Instagramで発信>

## 2. 各地区別計画（23地区）

### 地域福祉を支える「4つの助」と「これからの共助」について



地域福祉は4つの「助」で成り立っています。公的サービスやセーフティーネットによる「公助」、社会保険等の制度的な相互扶助による「共助」、地区・町が進める地域福祉活動である「互助」、自らが介護予防や社会参加する「自助」となります。中でも「共助」の考え方は、これまでの制度的な支え合いにとどまらず、地域の「互助」とも結びつきながら、大きく広がりを見せています。

例えば、企業が持つ「資源やノウハウ」、学生が持つ「若さや行動力」、外国籍の方が持つ「多様な文化視点」など、多様な主体がそれぞれの強みを持ち寄ることで、地域の課題に対して、これまでにない新しい解決策を生み出すことにつながります。制度としての共助や従来の互助の枠を超え、みんなで協力し、共に創る新しい助け合いこそが「これからの共助」です。

### 各地区別計画の構成と見方

各地区別計画は、それぞれの地域特性を活かし、住民の皆様との協働により策定いたしました。今後は、この「地区ならではの」福祉指針

に基づき、地区ごとの実情に即した活動を推進してまいります。

**地区名**  
地区名及び自治会名

**めざす将来像**  
5年後どんな地区にならなりたいか

**地区の情報**  
地区の状況や特徴的な活動など

第1章 第2章 第3章

**岩神地区** 岩神町一丁目、岩神町二丁目、岩神町三丁目、岩神町四丁目、教場町、緑が丘町

**めざす地区の将来像**  
自然・文化・福祉が調和する、誰もが暮らしやすい地域  
多世代がつながる場づくりと住民主体の活動が充実した地域  
地域ぐるみの見守りと支え合いの実践が進む地域

**地区の情報**  
住民が主体となった多彩な地域活動が展開されています。  
地域づくり協議会では、三世交代のポッチャ交流会やランドゴルフ大会など世代を超えた交流の機会を継続的に開催しています。  
地区社会福祉協議会では、NPO法人や企業、学生と連携した地域食堂やラジオ体操などを実施しています。  
また、全町でふれあい・いきいきサロンやふれあい食堂が、町ごとの特性を活かし、工夫して取り組まれており、日頃から顔の見える関係を築き、つながりを深めておくことで、災害時にも自然と支え合える地域を目指しています。

**地区の課題**  
活動の担い手や参加者の高齢化・固定化  
サロンや行事を支える担い手が高齢化しており、参加者も減少、あるいは同じ顔ぶれに固定化している。  
「若い世代との連携」の不足  
地域行事の情報若い世代に行き届かず、子どもや若い世代の意見を活動に反映させる機会も少ない。  
災害への備えや意識の差  
地区の大部分が浸水想定区域に位置しており、災害時の備えが必要だが、住民間での災害に対する危機意識には差が見られる。

**取り組むこと**  
地域資源の魅力を生かした活動の展開  
教場公園・利根川沿いなどの自然を生かした活動や企業と連携した活動を発展させていく  
多世代交流の機会を増やす  
子ども・若者との交流を促すイベントを通じ、日頃から顔の見える関係づくりを進める

健康寿命の延伸  
世代間交流の充実、助け合いのある  
住民主体のまちづくり

**スローガン**  
地区の合言葉やテーマ

**地区の課題**  
課題や困っていること・問題点等

**取り組むこと**  
目指す将来像に向けて取り組むこと

# 岩神地区

岩神町一丁目, 岩神町二丁目, 岩神町三丁目,  
岩神町四丁目, 敷島町, 緑が丘町



<防災訓練>



<カレー食堂>

健康寿命の延伸  
世代間交流の充実、助け合いのある  
住民主体のまちづくり

## めざす地区の将来像

自然・文化・福祉が調和する、誰もが暮らしやすい地域  
多世代がつながる場づくりと住民主体の活動が充実した地域  
地域ぐるみの見守りと支え合いの実践が進む地域

## 地区の情報

住民が主体となった多彩な地域活動が展開されています。

地域づくり協議会では、三世代交流のポッチャ交流会やグラウンドゴルフ大会など世代を超えた交流の機会を継続的に開催しています。

地区社会福祉協議会では、NPOや企業、学生と連携した地域食堂やラジオ体操などを実施しています。

また、全町で実施されているふれあい・いきいきサロンやふれあい会食は、町ごとの特性を活かし、工夫して取り組まれています。日頃から顔の見える関係を築き、つながりを深めておくことで、災害時にも自然と支え合える地域を目指しています。

## 地区の課題

### 活動の担い手や参加者の高齢化・固定化

サロンや行事を支える担い手が高齢化しており、参加者も減少、あるいは同じ顔ぶれに固定化している。

### 若い世代との連携の不足

地域行事の情報が若い世代に行き届かず、子どもや若い世代の意見を活動に反映させる機会も少ない。

### 災害への備えや意識の差

地区の大部分が浸水想定区域に位置しており、災害時の備えが必要だが、住民間での災害に対する危機意識には差が見られる。

## 取り組むこと

### 地域資源の魅力を生かした活動の展開

敷島公園・利根川沿いなどの自然を生かした活動や企業と連携した活動を発展させていく

### 多世代交流の機会を増やす

子ども・若者との交流を促すイベントを通し、日ごろから顔の見える関係づくりを進める

### 情報や活動の見える化・発信

防災に関することやイベントの情報などを若い世代にも発信し、地域を知る・活動に参加するきっかけをつくる

# 敷島地区

昭和町一丁目, 昭和町二丁目, 昭和町三丁目, 平和町一丁目,  
平和町二丁目, 住吉町一丁目, 住吉町二丁目



<支え合い活動>



<ザスパ群馬との連携事業>

地縁とITのコラボで  
住民がつながり、活躍でき、  
安心して暮らせるまちづくり

## めざす地区の将来像

地域と事業所・企業が協力しながら、多世代の交流を深める地域  
IT技術を取り入れた見守りの実践が進む地域  
若者も高齢者も主体的に活動できる支え合いの地域

## 地区の情報

さまざまな側面から福祉のまちづくりを推進しています。

高齢者を中心とした居場所として全町でふれあいいいきサロンが開催されています。

子ども向け事業の推進にも力を入れており、ザスパ群馬と連携したイベントを実施しています。

また、世代間交流事業として、地域づくり協議会主催のグラウンドゴルフ大会や、地区社協と企業や施設が連携したイベント、あおぞらカフェにも力を入れています。多様な世代が主体的に地域活動へ取り組むことで、住民同士でちょっとした困りごとを解決したり、IT技術を活用した見守り・支え合いシステムの構築など、住民全体がつながる地域を目指しています。

## 地区の課題

### 担い手の不足

市内でも高齢化率が高く、地域活動を支える担い手の高齢化も進んでいる。

### 子ども向けの活動が縮小

担い手が不足しているため育成会を組織できない町もあり、イベントの開催が困難になっている。

### デジタル活用による情報格差

スマートフォン等を使いこなせる人とそうでない人との間で、情報伝達に格差が生じている。

## 取り組むこと

### 新たな担い手の発掘

アクティブシニアや小中高校生などの人材を発掘し、住民同士の支え合い活動を充実させる

### IT活用による見守り・支え合い活動の活性化

現行の見守りを基盤としつつ、若い世代と連携することで、情報格差をなくしながらITの普及を進め、見守りや支え合いを強化する

### 各種団体の連携強化

既存の活動に若い世代や子どもを巻き込み、幅広い世代が協力し合って事業を検討する親世代が中心となって子ども向けの事業を検討し、地区全体で支える環境を育む

# 若宮地区

国領町一丁目、国領町二丁目、若宮町一丁目、若宮町二丁目、  
若宮町三丁目、若宮町四丁目、日吉町四丁目



<学生と共にまちなか交流サロンの様子>



<地域を盛り上げる 才川まつり×のびゆく  
こどものつどい・ふれあいの広場の様子>

できるときに、できることを  
皆が安心して  
暮らせるまちを目指して

## めざす地区の将来像

地域活動が身近に感じられ、次の担い手が育っていくまち  
日常の声かけや見守りが自然に行き交い、安心して暮らせるまち  
地域の魅力やつながりを活かし、世代を問わず関わり合えるまち

## 地区の情報

前橋市の中心部に位置し、住宅地と商業地が混在する地域です。高齢化が進む一方で、自治会や民生委員、ボランティア団体などが連携し、見守りや交流の取り組みを続けています。

地域行事の参加者や担い手確保が課題となる中、住民同士の声かけや挨拶、ふれあいサロンなどを通じてつながりを維持する努力が続けられています。

認知症や介護が必要を地域で見守り・寄り添い合える関係づくり、若い世代の地域参加の促進、多世代が交流できる居場所づくりを目指しています。

## 地区の課題

### 地域コミュニティの活力の低下

少子高齢化や単身世帯の増加により、地域行事の参加者や担い手が減少し、団体の役職継承も難しくなっている。

### 住民の孤立化

近所付き合いが希薄になり、交流の場に参加しても孤立感を抱いてしまう住民がいる。

### 世代間交流の希薄化

若い世代の地域活動への参加が進まず、世代間の連携や交流が弱まっている。

## 取り組むこと

### 地域活動への参加と担い手の発掘

回覧板や掲示板、WEB媒体等を活用して地域活動を見える化し、参加のきっかけを広げながら、次世代の担い手となる人材の発掘や育成に取り組んでいく

### 地域資源と多様な主体との交流の機会の促進

地域の魅力を活かしながら、地域団体や学生、企業と連携し、世代を問わず参加しやすい居場所や交流の機会を広げていく

### 日常の声かけを大切に、安心して過ごせる地区の推進

町単位の枠を越え、地区全体でさりげない見守りや日常的な声掛けを行い、顔の見える住民同士の関係性を強化していく

# 城東地区

日吉町一丁目, 日吉町二丁目, 日吉町三丁目, 城東町一丁目, 城東町二丁目, 城東町三丁目, 城東町四丁目, 城東町五丁目



<日吉二丁目前橋まつり>



<日吉三丁目サロン>

気軽に交流し支え合える  
地域活動に楽しく参加する  
誰もが住みよい福祉のまち

## めざす地区の将来像

自治会活動を通して、住民同士が気軽に交流し合える  
地域の活動に担い手・参加者として楽しく参加する  
誰もが住みよい福祉のまち

## 地区の情報

県立図書館、K'BIXまえばし福祉会館(第4コミュニティセンター)、商工会議所、中央郵便局などが点在し、近隣には、スーパーやコンビニなどの商業施設も多く生活に便利な地域です。

地域のお祭りなどでは笑顔があふれ、三世代が交流できるイベントも開催されています。



<日吉二丁目サロン>



<城東フェスタ>

## 地区の課題

**一人暮らし高齢者の増加と見守り体制の不足**  
地区内の一人暮らし高齢者が増加し、高齢化率も高い。また、一人暮らし高齢者の生活を見守る仕組みが少ない。

**地域活動における担い手不足と参加者の減少**  
自治会活動・サロン活動等の担い手の高齢化による不足、及び、参加者の減少が進んでいる。

## 取り組むこと

### 地縁団体の担い手確保

子育て協議会、老人連合会、保健推進員会、更生保護女性会など、地縁団体の担い手の確保

### 地域の交流活動の継続・活発化

「ふれあい会食会」や「サロン」等の地域の交流活動の継続・活発化する

### 見守り活動強化

見守り活動を連携して実施する

# 中部地区

千代田町二丁目, 千代田町三丁目, 千代田町四丁目, 千代田町五丁目, 本町二丁目, 表町一丁目, 表町二丁目, 大手町一丁目, 大手町二丁目, 大手町三丁目, 紅雲町一丁目, 紅雲町二丁目, 千代田町一丁目, 本町一丁目, 南町一丁目

つながる想い、広がる活動  
未来へ進む中部地区



<大学生の若い力で、地域を盛り上げています>



<地区内の大学生と地域の活動者が定期的な情報交換会を実施しています>

## めざす地区の将来像

歴史とにぎわいが共存する前橋市の中心エリア  
地域の伝統を守りながら、大学や商店街、企業、NPOなど  
多彩な仲間と手を取り合う  
誰もが安心して暮らせる未来を創り続ける

## 地区の情報

前橋市の中心市街地に位置し、中央地区と桃井地区に属する15の自治会で構成されています。

伝統的な祭りや文化が今も受け継がれ、商店街も残るなど、伝統と賑わいが息づく地域です。

また、地区内の群馬医療福祉大学と連携し、共催行事や情報交換会を定期的に行っています。



<商店街では様々なイベントが開催されて賑わっています>

## 地区の課題

### 活動の担い手が固定化

群馬医療福祉大学の学生との連携が進んでいるものの、大学生だけでは町の活動を十分に支えきれず、町の活動者が固定化する状況が続いている。

### 高齢化と担い手の不足

高齢化の進行と担い手不足が同時に進んでおり、一部の町では民生委員の定員割れも発生し、地域活動の継続性が懸念されている。

## 取り組むこと

### 地域福祉への理解促進

研修会や情報交換会を開催し、住民が身近な福祉課題について学び、理解を深める機会を提供する

### 多様な主体との連携

大学・商店街・企業・NPOなど、地域福祉活動に前向きに取り組める活動者を発掘し、思いを形にできるように、情報を広く共有・提供する。

# 中川地区

本町三丁目, 三河町一丁目, 三河町二丁目, 朝日町一丁目,  
朝日町二丁目, 朝日町三丁目, 朝日町四丁目



<中川小学校での防災訓練>



<地区社協研修会(戦災講演会)>

地域全体が繋がり支え合える  
安全・安心な町に!

## めざす地区の将来像

地域全体が“三世代家族”のような、年齢に関係なく、  
繋がり支え合える町に  
住みやすい安全・安心な町に

## 地区の情報

交通の便が良く、様々な店舗や施設、医療機関に恵まれています。その一方、高齢化率が非常に高い地域です。

地区の歴史をカルタや催しで次世代に継承する活動を行っています。

また、前橋生涯活躍のまち(CCRC)構想が進み、「コロンシティ」の名称で商業・医療・福祉施設などが運営されています。

シティ内の施設運営者で「コロンサークルまえばし」も活動しており、さらなる地域活動の活性化が期待されています。

## 地区の課題

### 高齢化と人口減少

市内で特に高齢化率が高く、一人暮らしや高齢者のみの世帯も多い

人口減少が進み、人と人のつながりが弱まる中、防犯・防災面や景観悪化の懸念がある。

### 次世代の担い手の不足

担い手の高齢化が進む一方で、若い世代を地域活動の新たな担い手として巻き込めていない。

### 地域活動への参加者の減少

地域活動や行事への参加者が年々減少し、新しい参加者(特に若い世代)が増えない状況である。

## 取り組むこと

### 若い世代を巻き込む地域づくり

若い世代が積極的に参加したい・協力したいと思える地域活動や行事を企画する

### 全世代における町ぐるみの交流の促進

全世代における町ぐるみの交流(三世代交流)を促進する

### 防犯・防災の取り組みの推進

防犯・防災に対し、地域全体で取り組みを推進する

# 文京地区

文京町一丁目, 文京町二丁目, 文京町三丁目, 文京町四丁目,  
天川原町一丁目, 天川原町二丁目, 天川町, 第一天川町



<生きがい塾>



<合同防災訓練>

みんなで「つなぐ」  
安心のつづくまち

## めざす地区の将来像

「向こう三軒両隣」をモットーに住民同士が気にかけて安心して暮らせる

幅広い世代が地域活動に継続的に参加し、「お互い様」の関係づくりを意識し合える

## 地区の情報

前橋駅の南東部を中心に位置し、学校や教育施設が充実しています。

地区内では、地域づくり協議会や地区社協等さまざまな団体が活動しており、学習機会や世代間交流の場を提供しています。特に、45年の歴史を持つ「生きがい塾」は、地域住民の生涯学習の場になっており、令和7年度は会員数が増加するなど住民の生涯学習に対する意識も高い地域です。

他にも「少年の日」や「土曜ひろば」では、地区内の小学生を対象に親子防災教室やものづくり教室などを実施し、親子の交流を育んでいます。

## 地区の課題

### 暮らしの安全に対する不安

多くの世代で健康状態や災害時の備えに不安を感じる人が多い

### 幅広い世代を巻き込んだ活動の継続

保護者世代を含め、子どもから高齢者まで幅広い世代を巻き込んだ既存の活動の継続

### 担い手の固定化と参加者の減少

新規担い手を巻き込む難しさや住民の地域活動参加者が減少する等、活動の継続性が課題となっている

## 取り組むこと

### I. 防犯や災害時の体制構築

防犯や災害時の体制構築を目標に、住民同士の挨拶や日常のさりげない見守り強化で顔見知りの関係作りを目指す。

### II. 多世代が地域活動に参加できる環境づくり

既存活動を継続して情報発信し、子どもから高齢者まで幅広い世代が地域活動に参加し続けられる環境づくりを行うことで、地域全体で「お互い様の関係づくり」を目指す。

### III. 担い手の活躍の場の提供・潜在的担い手の発掘

介護予防サポーター等既存の活動者の活躍の場を設け、活動の活発化・継続性の確保を目指す。併せて地域住民の潜在的な担い手を発掘できるような情報発信を工夫し、既存活動の継続・発展を目指す。

# 南部地区

南町二丁目, 南町三丁目, 南町四丁目, 六供町, 六供町生川



<福祉対策・連絡会議のようす>



<のびゆく子どものつどい・ふれあいの広場>

日常の見守りと交流の力で  
お互いに支え合える南部地区

## めざす地区の将来像

- ・充実した見守り体制で顔の見える関係ができる
- ・困った時に支え合い、助け合える
- ・世代を問わず住民同士が繋がることできる

## 地区の情報

南部地区は前橋駅の南西部を中心に位置し、学校や公園の数に恵まれている地域です。

南部地区では地区社協の構成員（自治会長・民生委員町代表・保健推進員会長・更生保護女性会長）で福祉対策・連絡会議を年10回程度開催しており、包括支援センターや前橋市社協を交えて情報交換や事例共有を行っています。

また、全町で町社協が立ち上がり、見守りネットワーク図を作成し、有事の際に適切な機関につながられるように住民間の見守りや、助け合いの体制を整えています。

## 地区の課題

### 福祉委員や地域活動参加者の減少

少子高齢化の進行に伴い、担い手や地域活動への参加者ともに減少傾向にある。

### 幅広い世代への対応

高齢者だけでなく、子ども等若い世代も含めた福祉課題への対応が難しい。

## 取り組むこと

- ① **地域住民による見守りと福祉対策会議における連携体制の強化**  
地域全体での日常的な見守り・声かけの意識向上と、福祉対策会議を活かした各関係機関との密な連携体制の強化を目指す
- ② **世代を超えた交流と地域参加の促進**  
世代間交流の推進と、地域行事への参加を通じた住民同士の顔の見える関係づくりを目指す

- ③ **多様な主体が関わり継続的な地域活動の促進**

民生委員や自治会のOB・OG、企業や学校など、多様な主体が地域活動に参加できる仕組みづくりで活動の継続性・活性化、地域共生社会の実現を目指す

# 上川淵地区

上佐鳥町, 櫛島町, 上朝倉町, 下朝倉町, 朝倉町一丁目, 朝倉町二丁目, 朝倉町三丁目, 朝倉町四丁目, 後閑町, 広瀬町一丁目, 広瀬第一団地, 広瀬町一丁目天神山, 広瀬町二丁目, 広瀬町一・二丁目南部, 広瀬町三丁目, 下佐鳥町, 宮地町, 西善町西善, 西善町上両家, 西善町下両家, 西善町矢田, 中内町, 東善町, 山王町, 山王町一丁目, 山王町二丁目



<ふれあい茶話会>



<ふれあいの広場 ボッチャ体験>

気軽に声を掛け合い、  
見守り合い、  
支え合える地域を目指して

## めざす地区の将来像

若い世代に地域の歴史や文化を継承する地域

世代間交流のできる地域

気軽に声を掛け合い、見守り、支え合える地域

交流の機会や人とつながる機会の増加

## 地区の情報

「交流」に力を入れており、ふれあい茶話会やボッチャ、ウォーキング、サロンなどを通じて、高齢者の交流や介護予防、さらに、健康や生活に役立つ情報提供を行っています。

地区には、いちごやトマト、古代米など特産物が多く、また、朝倉・広瀬、山王の古墳群があり、さらに、太々神楽や獅子舞、神楽回しなど伝統行事を通じて、地域の歴史や伝統を大切にしています。

令和8、9年度にかけて、公民館が全面改装となり公民館活動を充分に行うことができません。

だからこそ、これまで以上に地区や町での交流を大切にし、住民同士のつながりを深めていきたいと考えています。このため、気軽に声を掛け合い、自然なかたちで見守り合いながら支え合える地域づくりを目指していきます。

## 地区の課題

### 地域の歴史や伝統の継承

地域の歴史や文化を次の世代にどう伝えていくかが課題である。

### 若者世代の減少と高齢化

若い世代の人口が減少し、地域全体の高齢化が加速している。

### 高齢者の外出問題

高齢者が買い物や通院などで外出する際の移動手段が課題となっている。



<みんなの脳トレと地区社協広報かみかわ>

## 取り組むこと

### 郷土の歴史文化と伝統の継承

地域の歴史的な古墳群や、地域の伝統的な祭りや文化活動を若い世代に伝承していく

### 地域支援者の掘り起こし

地域活動の新しい担い手や協力者を見つけ、活動への参加を促す

### 交流・見守りから、日々の支え合いへ

見守り活動や交流を通じた日々の支え合いを進める

### 交流の機会や人とつながる機会の創出

ふれあい茶話会や居場所活動、体操やサロンなどの交流の機会を増やす

# 下川淵地区

公田町, 横手町, 亀里町竜門, 亀里町阿内宿, 亀里町寺家, 亀里町矢島, 鶴光路町, 新堀町, 新堀西, 下阿内町, 力丸町, 徳丸町, 房丸町, 下川町

自治会や各種団体と共にあゆむ、  
下川淵地区の支えあいの町づくり  
(町社協)



<年2回開催する「下川淵地区支え合い会議」  
14町の自治会役員による町づくりの話し合い>



<14町から140名以上の介護予防サポーターが誕生  
各町の公民館で、サロン・ピンシャン体操を実施>  
(写真は下川町の七夕の集い)

## めざす地区の将来像

～つながろう下川淵～

人が集い交流するまち 安心安全なまち 歴史と文化を大切にするまち  
住みよい福祉のまち 心豊かなまち みんなで支え合うまち

## 地区の情報

年2回の支えあい会議や子育てサロン、3大行事であるトライアングルフェスタ、市民運動会、文化祭が開催されているほか、「下川淵カルタ」とおして、子供の頃から地域の歴史を学んでいます。

また、町ごとの活動として、伝統的・文化的な活動、サロン活動やピンシャン元気体操などの交流活動が充実し、さらに、きめ細やかな民生委員活動が行われています。

子どもから高齢者まで多くの住民が地域活動に積極的に参加し、住民同士のつながりが強い地域です。

今後は、地域のつながりをさらに強め、健康を維持するとともに、支援を必要とする方を地域全体で見守るまちづくりを推進していきます。

## 地区の課題

### 高齢化の進行と生活環境の変化

生産人口の減少と高齢化の進行に加え、大型店舗の開業による人や車の往來の増加が、生活環境に影響を及ぼしている。

### 防災や福祉における拠点の未整備

浸水想定区域であるが、洪水の緊急避難所が未設置であったり、地区の福祉の拠点が明確になっていないなど、防災や福祉の基盤整備に課題がある。



<下川淵カルタのクイズ (文化祭)>

## 取り組むこと

### 日頃からの顔が見える関係づくりをさらに充実させる

全町での見守り活動を継続・発展させる  
要支援者を含め、誰もが安心して生活できる  
支援体制を確立する

### 地域防災力の一層の向上を推進する

自主防災組織と支えあい活動が連携した実効性のある避難体制を整備する  
若い世代を含めた住民全体で防災・見守りの意識を共有し、地域の持続的な力を高める

# 芳賀地区

勝沢町, 小神明町, 端気町, 五代町, 鳥取町, 小坂子町, 嶺町,  
金丸町, 高花台一丁目, 高花台二丁目

全世代が住みよい  
芳賀地区を目指して



<高二サロンの様子>



<七つの祝いの様子>



<のびゆく子どものつどい  
ふれあい広場>

## めざす地区の将来像

### 「全世代が住みよい 芳賀地区を目指して」

～つながりを生かした 助け合いの仕組みづくり～

#### 地区の情報

芳賀地区では、来春小学校に入学する児童を地区をあげて祝う「七つの祝い」や「芳賀地区のびゆく子どものつどい・ふれあいの広場」、芳賀地区最大のお祭りである「芳賀ふるさとまつり」などが、地区内各種団体の連携協力により開催されています。

いずれの行事も、たいへん伝統のある・笑顔あふれる行事となっています。

また、芳賀地区は、ふれあいいきいきサロンや見守り活動が活発です。

住民同士の交流・つながりを図るとともに、安心安全な町づくりを行っています。

#### 地区の課題

- 少子高齢化が進み、地域の行事参加者が減っている町もありますが、今後、ますます人と人とのつながり、交流が大切です。
- 高齢者や一人暮らしの方が多くなっています。子どもの登下校時の事故も心配です。
- 免許返納や身体状況の低下により、買物や通院、地域行事に行けなくなる方がいます。
- 商業施設がなく、買物に困る方がいます。
- 空き家や耕作放棄地が増え、草が生え荒れているところがあります。災害時の避難や防犯対策も心配です。

#### 取り組むこと

- ふれあいいきいきサロンや地域の行事開催により、住民の一層の交流を図ります。
- るんるんバスの本格運行や移動支援サービスの利用により住民の移動手段を確保し、住民の買物ニーズには、移動販売車などの利用により、住民がふるさと芳賀で、共生できるように取り組みます。空き家対策に取り組みます。
- 地域で気がかりな方に対しての見守り訪問や、子どもの安全確保のための登下校時の見守り活動の実施により、安全安心なまちづくりを行います。
- 行政とも連携して、災害時の避難場所の周知や防災意識の向上、空き家対策に取り組みます。

# 桂萱地区

三俣町一丁目, 三俣町二丁目, 三俣町三丁目, 幸塚町, 上沖町, 下沖町, 西片貝町, 東片貝町, 上泉町, 石関町, 亀泉町, 荻窪町, 堀之下町, 堤町, 堤町北区, 堤町ローズタウン, 江木町, 江木町第二, 江木団地, 萱野団地, 東ローズタウン

地域全体で「すみよい桂萱」づくりを目指す



<サロン支援者講座>



<のびゆく子どものつどいふれあい広場>

## めざす地区の将来像

地域全体で「すみよい桂萱」づくりを目指す

### 地区の情報

桂萱地区は、福祉施設や教育機関が充実した土地柄を活かし、これらの関係機関と連携した取り組みが実施されています。

ほとんどの自治会にサロンがあり、毎年担い手研修を実施しています。

サロンとの連携をはじめ、また県外への先進地視察研修等を取り入れながら地域全体で、つながりを生かした助け合いの仕組みづくりを推進しています。



<先進地視察研修>

### 地区の課題

- 地域活動の担い手不足
- 地域活動への新規参加者の不足
- ひとり暮らし高齢者世帯の増加
- 老々世帯の増加
- 空き家が増えてきている
- 若い世代の地域参加減少



<地域づくり 視察研修>

### 取り組むこと

- 地域活動の担い手発掘と育成強化
- サロン、自主学習グループ、福祉施設等の連携強化による地域活動の拡充
- 高齢者を対象とした災害時や日常の見守り活動の展開と困りごと相談体制の拡充
- 空き家の管理・活用方法の対策強化
- 若者たちと地域住民が一緒になって地域づくりへ介入

# 東地区

東箱田後家町, 西箱田町, 前箱田町, 川曲町, 稲荷新田町, 大利根町, 下新田町南, 下新田町東陽, 下新田町, 上新田町, 光が丘町, 朝日が丘町, 小相木町, 古市町, 新前橋町, 江田町, 青葉町



<東地区担い手研修会では、町ごとのグループワークを実施しています!>



<多くの町でピンシヤン元気体操に取り組んでいます!>

つながる想い、広がる未来  
 東地区で描く持続可能な地域づくり

## めざす地区の将来像

住民同士が町の枠を超えて、自由に連携・協力し合える東地区  
 地域外の活動者と地域住民がともに地域づくりに取り組める東地区  
 誰もが無理なく関わり続けられる、持続可能な東地区

## 地区の情報

市内で最も高齢化率が低く、比較的若い世代の担い手によって、各町でサロンやピンシヤン体操などの活動が継続的に行われている地区です。

また、地区内の高校・大学・専門学校など、多様な教育機関と協働し、地域の取り組みを進めています。

近年では、介護予防サポーターや認知症サポーターといった活動者が活躍できる場づくりを進めており、町の垣根を越えた取り組みも推進しています。

## 地区の課題

担い手不足や活動の偏りが課題になっている  
 若い担い手が多く活躍している町がある一方で、「担い手がない」「活動が一部の人に偏っている」といった課題を抱える町も見られる。

町ごとの課題の違いが明確になっている  
 町社協の設立が進み、コロナ禍で一時停滞していた地域活動も再開されつつある中で、町ごとに抱える課題がより明確になってきた。

## 取り組むこと

### 多様な媒体による広報活動の推進

地区住民に東地区の取り組みを広く知ってもらうため、紙媒体、WEB媒体を活用した周知・広報活動を行う

### 定期的な課題共有・対策会議の設置

情報交換会や担い手研修会の場を活用し、一つの町だけでは解決できない課題の対策を話し合う場を定期的にする

### 好事例の共有と活動のヒントとなる場の創出

良い活動事例を地区全体に広げ、各町の活動のヒントになる場を作る

東地区の介護予防サポーターさんが作成したチラシを基に、地区内のサポーター活動を増々充実させていきたいと思えます!



# 元総社地区

元総社町第一, 元総社町第二, 元総社町第三, 元総社町第四, 大友町, 石倉町上石倉, 石倉町中部, 下石倉町, 元総社町10区, 烏羽町東部, 烏羽町西部, 問屋町



<サロンでは笑顔の輪が広がります>



<群馬ヤクルト販売株式会社による「ポールウォーク体験会」の様子>

みんなで作る、笑顔の元総社

## めざす地区の将来像

交流を通じて「顔の見える関係」を広げる  
健康づくりや見守り・支え合いが自然に続く、安心して暮らせる  
地域を目指す

### 地区の情報

市内で高齢化率が3番目に低く、比較的若い世代が多く居住しています。

スマホ保有率やLINE利用率などデジタル活用率が高く、デジタル基盤が整っています。

また、全町で「ふれあい・いきいきサロン」を実施していて、高齢者にとっての交流や居場所づくりの場となるとともに、顔の見える関係づくりや介護予防にもつながっています。

### 地区の課題

#### 住民の健康への不安の高まり

健康状態や体調が悪くなった時など、「健康」に不安を感じている住民が多い。

#### 移動や生活支援への不安

災害時の避難や外出時の移動など、「移動」に関する不安が大きい。  
また、買い物や除草といった「生活支援」への不安を感じている住民もいる。

### 取り組むこと

#### 広報の強化と新たな協力者の確保

若い世代などが参加しやすいような呼びかけを行い、  
新たな協力者を増やしていく活動を住民に広く知ってもらい、  
関心を持っていただけるように、周知・広報に力を入れながら新たな協力者を増やしていく。

#### 交流を通じた健康づくりの継続

「交流を通じた健康づくり」に、これからも継続して取り組む。

# 総社地区

総社町大渡, 総社町野馬, 総社町巢烏, 総社町鍛冶町, 総社町栗島,  
総社町大屋敷, 総社町山王, 総社町新田, 総社町立石, 総社町桜が丘,  
総社町植野, 総社町高井, 総社町城川



<地域福祉活動実務者交流会の様子>



<ふれあいの広場で子どもたちが  
車椅子を体験>

つながりのあるまち  
安心して暮らせるまち  
支え合いのあるまち

## めざす地区の将来像

世代をつなぎ、誰もが安心して暮らせる、  
支え合いのあるまち

### 地区の情報

歴史や文化を大切にしながら住民同士の交流を育んできました。

近年は子育て世帯や若い世代の転入が進み、多様な世代が共に暮らす地域へと変化しつつ、従前からの住民と新しい住民が交流する機会を、今後さらに広げていくことが期待されています。

令和6年度地区社協研修の際に行ったアンケートでは「サロンや居場所づくり」「見守り活動」「支え合い」「仲間づくり」「活動の広報」に関心が寄せられています。

### 地区の課題

#### 新旧住民・世代間の交流機会の確保

参加しやすい居場所づくりや交流の場の確保、地域全体の一体感を育成するための新旧住民・世代間交流の推進が求められている。

#### 多様な住民への支え合い体制の確保

高齢者や子育て世代など、多様な住民に対応した見守り・支え合いの環境づくりが求められている。

#### 活動の継続を担う人材の確保

担い手の育成等による持続可能な活動に向けた取り組みが求められている。

### 取り組むこと

#### 多世代の居場所づくりと支え合いの推進

「サロンや居場所づくり」を広げ、多世代が自然に顔を合わせられる交流拠点を整備する

日常的な声かけや見守り活動を住民同士で支え合える仕組みづくりを進め、孤立防止を図る

#### 新たな担い手の発掘と育成

周知広報活動等に配慮しながら、若い世代や新住民も参加しやすい活動を展開し、担い手を育てる

#### 歴史・文化を通じて交流を深める

歴史や文化資源を生かした行事を通じて、新旧住民や世代を超えた交流を深める

# 南橘地区

上細井町、下細井町、北代田町、下小出町、上小出町、龍蔵寺町、青柳町、荒牧町、日輪寺町、川端町、田〇町、関根町、川原町、南橘町



<町の支え合い活動について話し合う情報交換会の様子>



<人と人との交流の場のきっかけ作りとしてボッチャに取り組んでいます>

「日常のつながりが、安心のまちづくりへ」  
交流・地域の魅力・災害への備えを  
皆で育てる

## めざす地区の将来像

- ・誰もが気軽に関われる、思いやりと助け合いの地域
- ・世代や立場を越えてつながる、交流と居場所のある地域
- ・災害に備え、支え合いながら安心して暮らせる地域

## 地区の情報

南橘地区は、自然環境と都市機能が調和した地域です。

ほたるの自生地や赤城白川などの豊かな自然に囲まれながら、商業施設も点在し、日常生活の利便性が高いことが特徴です。

各町では防犯パトロール隊による見守り活動が日常的に行われており、安全・安心な地域づくりを進めています。

多くの町の公民館は午前中に開館しており、住民の身近な相談窓口としても機能しています。

また、地域の文化や自然を活かした活動により、世代を超えたつながりを目指しています。

## 地区の課題

### 地域活動の参加層の固定化

ふれあい・いきいきサロンや行事等の参加者が限られており、若年層や子育て世代の参加促進が求められている。

### 災害時の支援体制の強化

見守り活動が行われている一方で、大規模災害や避難時の対応など、住民の不安や備え不足の解消が求められている。

### 地域活動の担い手の拡充

担い手の発掘・育成による継続的な活動が求められている。

## 取り組むこと

### 多世代が参加しやすい地域活動の機会や仕組みの検討

多世代が参加したいと思える交流や居場所づくりの企画・運営の支援

### 地域を支える新たな担い手の掘り起こしと育成

紙とデジタルで地区の情報を周知、参加のきっかけを作り、交流を通じて地域へのつながりを深めることで、町単位の活動（町社協等）を支える新たな担い手を育む

### 災害時に声をかけあい、助け合える関係づくりの構築

自然豊かな地域から商業施設が点在する地域まで、それぞれの地域特性を踏まえながら、防災に関する情報発信や、日常的な声かけ・見守り活動を通じて、顔の見える関係づくりを継続

# 清里地区

池端町, 上青梨子町, 青梨子町, 青梨子町前原, 清野町

花と笑顔が広がる  
つながりのまち清里



<サロンでは笑顔の輪が広がります>



<理学療法士による「いきいき身体づくり教室」の様子>

## めざす地区の将来像

サロンや地域行事などを通じて交流の輪や健康づくりを広げ、誰もが安心して暮らせる地域を目指す

## 地区の情報

全町で「ふれあい・いきいきサロン」を実施しており、高齢者にとっての交流や居場所づくりの場となっています。サロンを通じて、顔の見える関係づくりや介護予防にもつながっています。

また、年1回の「お出かけサロン」では、全町のサロンが合同でしま老人福祉センターを訪れ、普段なかなか顔を合わせる機会の少ない方々同士が交流できる、貴重なひとときとなっています。

さらに、令和3年度からは地区社会福祉協議会の主催により、「健康寿命の延伸」に向けた取り組みを進めています。

「きよさと焼」や「オープンガーデン」など、花や食を通じた交流も大切にしながら、つながりづくりを育んでいます。

## 地区の課題

### 参加者の高齢化・固定化

サロンや行事への参加者が高齢化しており、同じ顔ぶれに固定化している傾向にある

### 高齢者の移動手段

移動手段が限られているため、サロンや行事への参加が難しい高齢者がいる

### 健康への不安の高まり

健康に関する不安を感じている高齢者がいる



<きよさと焼>



<オープンガーデン>

## 取り組むこと

### 健康寿命の延伸に向けた取り組みの継続

「健康寿命の延伸」に向けた取り組みを、これからも継続していく

### 多様な主体との連携

企業やNPO、専門職などと連携することで活動の幅を広げていく

# 永明地区

天川大島町本町, 天川大島町原町, 天川大島町住宅, 野中町, 上大島町, 上長磯町, 下長磯町, 女屋町, 東上野町, 小島田町, 駒形町, 下大島町, 下大島町西団地, 下増田町

交流と見守りが広がる、  
安心して暮らせる永明地区



<町の活動情報交換会>



<のびゆく子どものつどい・ふれあいの広場>

## めざす地区の将来像

みんなでつながる交流の町

さりげない見守りで安心・町の特徴を活かす支え合い

### 地区の情報

都市化が進む町と昔ながらの地縁が息づく町、また、規模の大きな町と小さな町が共存する、個性豊かな地域です。

どの町も暮らしやすく、住民同士のあたたかいつながりが広がっています。

そして地域住民同士の協力により、各町の特徴を活かした活動が活発に行われています。

特に、ふれあい・いきいきサロンや居場所づくり、のびゆく子どものつどい・ふれあいの広場など各種イベントや交流の場には多世代が気軽に集い、地域の自然な見守りや支え合いにつながっています。

### 地区の課題

#### 高齢者の移動手段

移動手段が限られている地域があるため、サロンなどの地域の集まりへの参加が難しい高齢者がいる。

#### 担い手・参加者の確保

活動の中心を担う役員やボランティアが高齢化し、若い世代や男性の参加が少ない状況である。

#### 地区全体で取り組むことの難しさ

町ごとの違いが大きく活動内容や課題にも大きな違いがあるため、地区全体での課題解決が難しい。

### 取り組むこと

#### サロン・居場所づくりをさらに広げる

多世代交流を充実・発展させ、活動の担い手や参加者を拡大していくための啓発活動を進める

#### 町の特徴を活かした支え合い活動

他町との情報交換や他地区の先進事例の共有を通じ、各町の支え合い活動の強化を図る

#### ご近所同士の見守り活動の強化

日常のさりげない見守りや孤立しがちな単独世帯への声かけを広げることで、地域の安全・安心を高める

# 城南地区

下大屋町, 泉沢町, 富田町, 荒口町, 荒子町, 西大室町, 東大室町, 飯土井町, 新井町, 二之宮町, 今井町, 筑井町, 小屋原町, 上増田町, 鶴が谷町

誰もが楽しく参加できる  
明るく住みよい地域づくり



<サロン担い手情報交換会>



<子育てサロン こじかクラブ>

## めざす地区の将来像

住民が世代を超えてつながり、互いに支え合う  
居心地のよい楽しい地域

### 地区の情報

住民主体の各種福祉団体が盛んに活動する地域です。

地区社協では毎月理事会を開催し、構成団体の活動や地域課題に関する情報交換、事業の協議が行われています。

地域づくり協議会では、地域内交通や移動販売車の運行支援、三世代交流会等の地区の課題に対応した取り組みが活発です。

各町でも、地域の伝統文化や史跡を活かした交流やサロン、見守り活動を行ってきました。草刈りやゴミ出し、送迎といった、それぞれの特色に合わせた支え合い活動も広がっています。

### 地区の課題

- ・一人暮らし高齢者が増加し、見守りの充実や移動に関する問題、空き家の増加といった生活課題への対応が求められている。
- ・地域活動の参加者や担い手が高齢化、固定化してきており、幅広い世代や新たな担い手を取り込めていない。



<フレッシュ便で買物>

### 取り組むこと

- ・若い世代や子どもたち、新たな活動者が「楽しい」「参加したい」と思える活動づくり
- ・各種団体や各町の情報交換の継続・発展と、課題解決に向けた行政や関係機関とのさらなる連携

- ・サロン等の交流の場や見守り活動の充実と、住民の地域への関心を深める情報発信

# 大胡地区

大胡町, 茂木町, 足軽町, 堀越町, 堀越町堀下, 横沢町, 滝窪町, 東金丸町, 河原浜町, 樋越町, 上大屋町



<サロンリーダー研修会>



<ひとり暮らし高齢者交流事業>

住民が互いに支え合い、  
誰もが安心して楽しく幸せに  
暮らせる活力ある地域

## めざす地区の将来像

住民が互いに支え合い、誰もが安心して楽しく幸せに  
暮らせる活力ある地域

## 地区の情報

大胡地区は、各自治会ごとにふれあい福祉委員を設置し「ふれあい・いきいきサロン」や「ピンシャン！元気体操」などを地域の福祉活動について話し合いながら取り組んでいます。

また地区社協も、ふれあいの広場、サロンリーダー研修会、障がい児者親子バス旅行、ふれあいのまちづくり研修会など幅広く活動しています。

町社協としては、コミュニティカフェやラジオ体操等さまざまな取り組みをしています。

## 地区の課題

- ・隣近所との関わりが希薄化
- ・イベントを開催しなくても地域で居心地の良い空間をどうつくるか。
- ・自治会へに新規加入を考えている人はどんな事を自治会に求めているのか。



<ノスタルジクスコンサート>

## 取り組むこと

- 三世代交流会など、多世代が関わりがもてるような取り組みを推進する。
- 地域資源や社会資源に目を向け地域で連携できる仕組みづくりを進めていく。
- ふれあいサロンを基盤に地域の情報発信、更新することで地域の活動の見える化を推進する。

# 宮城地区

鼻毛石町, 柏倉町, 市之関町, 三夜沢町, 苗ヶ島町, 馬場町, 大前田町



<のびゆく子どものつどいふれあい広場>



<宮城地区社協 研集会>

地域住民が互いに支え合い、  
安心して暮らせる地域

## めざす地区の将来像

「地域住民が互いに支え合い、安心して暮らせる地域」  
支え合いのある地域 つながりのある地域  
さりげない見守りのある地域

## 地区の情報

地区としての連帯感があり、全7町でどの町もサロンや会食会等の交流事業を活発に実施しています。

また、各町の老人会の活動も活発で、グランドゴルフや神社清掃などをとおして、高齢者の地域交流の中心の一つとなっています。

見守り活動については、近所の結びつきが残っており、気がかりな方には、近所のつきあいの中でさりげなく見守りをしています。

また、見守りの中で、困りごとがあれば、各町ごとに組織されているおたすけ隊による支え合い活動につなげ、安心して生活できるようにしています。

## 地区の課題

### 高齢者の移動手手段の課題

地域が広く、サロン等の拠点まで遠い方がいる。また、参加者の高齢化に伴い、免許返納や足腰の衰えなどから、会場まで来られない方もいる。

### 表に出ていない困りごとの増加

一人暮らしの方も増え支援が必要な方も多くなっていくので、ますます地域の支え合いが大切である。

困りごとのアンケート調査をしているが、困っていても声を上げにくい人がいる。

### 防犯・防災対策の必要性

近年、災害や詐欺なども多く、また、空き家も増えており、防犯上、対策が必要である。

## 取り組むこと

### 交流促進と支え合いの関係づくり

高齢の方や多くの世代の方が集まり、楽しめる行事を開催するとともに、会場まで来れない方の移動・送迎を支援する

困っている方の声を拾えるよう、見守り訪問やサロン・老人会の集まりの中でも、些細な困りごとを気楽に相談できる関係づくり

### 生活支援と安全対策の強化

おたすけ隊の活動者の確保とともに、除草以外にも話し相手などの活動の普及行政などとも連携し、災害時の避難場所の確認や、防犯意識の向上、空き家対策の構築

# 粕川地区

粕川町中之沢区, 粕川町室沢区, 粕川町月田区, 粕川町稲里区,  
粕川町新屋区, 粕川町込皆戸区, 粕川町深津区, 粕川町女淵区,  
粕川町田面区, 粕川町中区, 粕川町膳区

皆でつながり支え合う  
安心して暮らせる地域づくり



<ふれあいの広場で車いす体験>



<地区社協研修会>

## めざす地区の将来像

互いを気にかけて困りごとに寄り添い合える  
安心して暮らせる地域

### 地区の情報

赤城山を望む自然の中で、各団体やボランティアが協力して交流活動や伝統芸能が継承され、住民同士がつながる地区です。

さりげない声掛けや訪問活動、困ったときの連絡先の共有により見守りの意識を育んできました。

全町でのふれあい・いきいきサロンの開催や新たな居場所づくりなど、それぞれの町が工夫を凝らしながら活動しています。

### 地区の課題

- ・ 少子高齢化とそれに伴う地域の担い手不足が進行し、現在ある団体や活動の継続が難しくなっている。
- ・ 地縁を大切にしたい住民同士の結びつきがある一方で、自治会・隣保班とのつながりや、地域との交流が希薄になる人も増えている。

### 取り組むこと

- ・ 担い手同士の情報交換の場を設けるとともに、地域住民に活動を周知し、住民ひとりひとりの地域福祉への関心を高める。
- ・ 日頃からの顔の見える関係づくりやさりげない見守りを継続・充実させる。
- ・ 各種団体との意見交換や横のつながりを強化し、安心して暮らせる地域づくりのためにともに課題に取り組む体制をつくる。

# 富士見地区

田島, 引田, 横室, 原上, 原中, 原西, 原東, 小沢, 米野, 徳沢, 時中, 時東, 中島, 辻, 梶谷, 受地, 所替戸, 高松, 石井一区, 石井二区, 石井三区, 漆窪, 市之木場, 山口, 皆沢, 白川台, 新地, 天神平, 西大河原, 箕輪, 大洞

住民一人ひとりの支え合いにより、  
地域の方が安心して  
暮らせるまちにしていけます



〈ふれあいのまちづくり研修会の様子〉



〈給食サービスでの調理の様子〉

## めざす地区の将来像

- ・人々が支え合いながら、住み慣れた地域で安心して、  
自分らしい生活を楽しめる地域
- ・いつまでも元気に過ごし、介護予防と健康づくりに楽しく取り組む地域
- ・たくさんの方が気軽に楽しく地域活動に参加できる地域

## 地区の情報

- ・「困ったときはお互い様」を大切に「交流・見守り・支え合い活動」を推進している。
- ・団体やボランティアが地域の様々な活動に関わっている。
- ・昔ながらの地域のつながりが残る一方で、新しい住民も増えており、地域活動にまだ参加できていない住民もいる。

## 地区の課題

地域活動の担い手が不足している。

- ・担い手の高齢化により、活動の継続が危ぶまれている。
- ・地域活動に参加する人や役員のなり手が少なくなり、担い手の負担が大きくなっている。

## 取り組むこと

### 支え合い・見守り体制の強化

地域住民が支え合いながら、住み慣れた地域で安心して自分らしい生活を楽しめるまちづくりの推進。地域の互助の促進と、見守りや支え合い活動の充実。

### 介護予防と健康づくりの推進

いつまでも元気に過ごし続けられるよう、介護予防と健康づくりを進める。

### 地域活動の担い手の確保・育成

地域活動に参加しやすい雰囲気づくりと活動の周知による、地域活動の担い手の拡充。子どもから大人まで広い世代への活動の周知と参加の促進。

地区を越えた仕組みの検討。

(他行政区、他地区、企業、学校、NPO、社会福祉法人など)

### 3. 前橋市社会福祉協議会の果たす役割

#### 市社協と地区社協と町社協の役割と関係

##### 自治会・町社協（284自治会）

「最近、あの人見かけないな」「元気がないな」といった、ご近所だからこそ分かる「気づき」や想いで動く、地域福祉の主役です。

##### 地区社協（23地区）

一つの町だけでは解決できない課題や、イベント（視察研修やふれあいの広場、防災など）を、「隣の町と協力して」取り組みます。

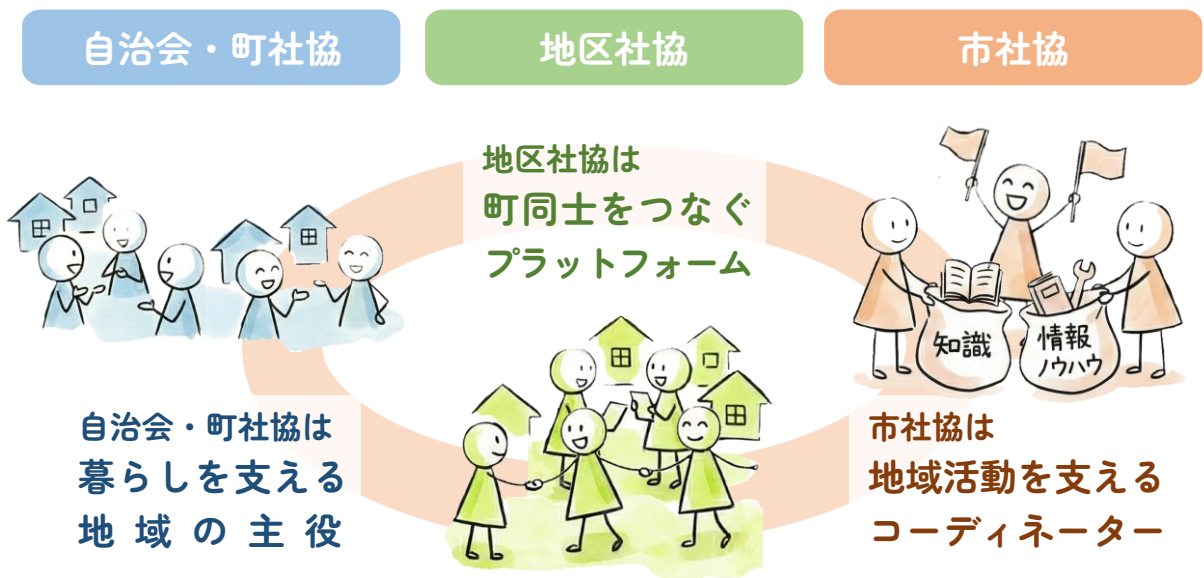
また、町が孤立しないように情報共有したり、協力し合う、つなぎ役です。

##### 市社協

地域住民や関係団体と協力して福祉のまちづくりを目指す民間の非営利団体です。

地域の皆さんが活動する中で「困った」「どうしよう」と思った時に、制度の知識や情報、他地区の取り組みやノウハウを提供し、地域活動を支えるサポーターであり、コーディネーターです。

地区や町の活動がスムーズに進むよう、環境を整える役割です。



対象	私と隣近所	地域の私たち	市全体と地域課題
土台	地域の想い・愛着	地域のつながり	制度と職業倫理
役割	小さな変化に気づく、共感する	町同士の連携と協力体制をつくる	専門性で生活と権利を守る環境を整える
強み	隣近所の関係 放っておけない気持ち	地区単位での活動 町同士の協力	市全体の情報と専門知識、 社協のネットワーク

## 前橋市社協の行っている地域福祉活動

本会では、市内23地区に「地区担当者」を配置しています。

地区担当者は、地域に深く入り込み、住民一人ひとりの暮らしと地域活動を支える「つなぎ役」としての機能を果たします。

また、関係機関と連携し、地域住民による情報共有や話し合いの場づくりに取り組むなど、包括的な支援を進めます。他にも市社協では、住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、下記のような取り組みをしています。

### 地域づくり・参加支援関連事業

#### 地区担当者の配置

市内23地区に地区担当者を配置。地域住民との緊密な関係を構築するとともに、担当者相互の連携を深め、地域福祉活動を推進します。



#### 交流・見守り・支え合い 活動への支援

地域住民や、多様な主体が連携・協働して、地域全体で取り組む地域福祉活動を支援します。



#### ボランティア活動の推進

ボランティア活動に関する相談や情報提供、活動先の紹介をしています。

- ボランティアコーディネート
- ビギナーズスクールの開催



#### 福祉教育

日常生活の課題に気づき、「ともに助け合う心を育む」ことを目的として実施しています。

- 福祉教育支援・講師の派遣
- 福祉機器の貸出し



#### 公的福祉施設・サービスの運営

- 老人福祉センター
- 地域活動支援センター
- 多機能型事業所こころ
- 児童クラブ
- 手話通訳者・要約筆記者の派遣
- 地域包括支援センター



#### その他の事業

- 安心カード事業
- おもちゃの図書館
- 善意銀行の運営
- 共同募金委員会
- 民間福祉関係団体の支援
- 福祉機器・福祉車両の貸し出し



### 相談支援・生活支援関連事業

#### 心配ごと相談事業

いつでもどんなことでも気軽に相談に受けるよろず相談所



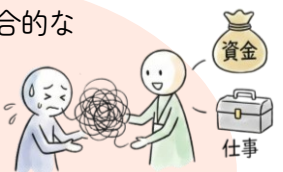
#### 日常生活自立支援事業 成年後見制度利用促進事業

福祉サービス利用援助・日常的な金銭管理の相談  
成年後見制度についての相談



#### まえばし生活自立相談センター

仕事や経済的に困窮する等の複合的な悩みや問題を抱える方からの相談受付、生活福祉資金の貸付

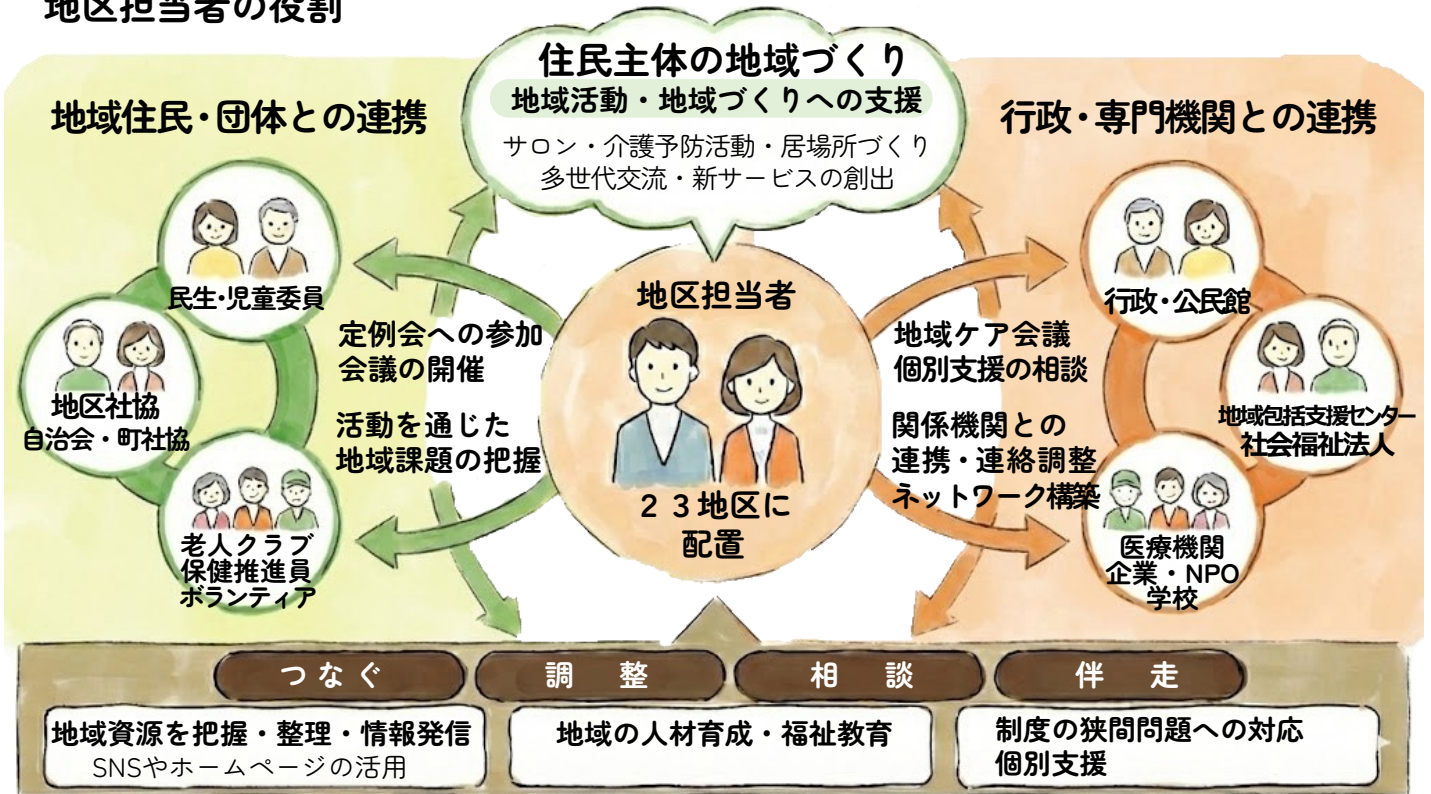


#### その他の事業

- 高齢者世話付き住宅事業
- ヘルパーによる障がい者支援
- 産後、ヤングケアラー訪問介護
- 介護事業



## 地区担当者の役割



地区担当者は、地域における福祉活動の推進役として、住民組織と専門機関の双方をつなぐ「パイプ役」を果たします。

日頃より民生・児童委員の定例会へ参加し、また、地域に出向いて実情を把握し、潜在的な地域課題を早期に把握します。

制度の狭間にある生活課題に対しては、丁寧

な「相談・伴走支援」を行います。

加えて、地域資源を発掘・活用しながら、サロン活動やボランティア育成など、住民主体の地域づくりを活性化させるための「連絡調整・後方支援」を包括的に担い、活動の持続可能性を高めます。

## 地区担当者の2つの役割

一人ひとりに寄り添う調整役

コミュニティソーシャルワーカー



制度の狭間に置かれたり、複数の悩みを抱えていたりして、どこに相談すればよいか分からない「個人や世帯」を支援します。

複雑な課題を抱える家庭を訪問し、一人ひとりの困りごとにじっくり向き合います。

必要な専門機関へつなぎ、困難な状況に継続的に寄り添う伴走者です。



地域をつなぐ調整役

生活支援コーディネーター



住民が住み慣れた地域で元気に暮らし続けられるよう、地域全体の「支え合いの仕組み」を整えます。「生活支援体制整備事業」の中で活動します。

多様な地域ニーズに応えるため、地域資源を把握し、必要に応じ、住民や企業等と連携して新たな仕組みを創り出します。

地域全体で人と活動をつなぐサポーターでありコーディネーターです。



### 新しい交流の取り組みとしくみづくり

地域のつながりが希薄になりがちな今、多世代が安心して集える「居場所」や、そこから生まれる新たな交流の形が注目されています。単なる「場所」の提供にとどまらない、地域活性化へ向けた多様なアプローチをご紹介します。

#### 暮らしのそばに広がる 多様な「居場所」

コミュニティカフェなどの開催場所は、公民館などの公共施設ではありません。

個人宅の空き部屋を開放したり、公園やお店の一角を活用したりと、そのスタイルは実に様々です。暮らしのそばに気軽に立ち寄れる、多様な「居場所」が広がっています。



個人宅を解放  
(はつらつカフェ朝日台)



イートインスペースの活用  
(株式会社フレッセイ 元総社蒼海店)



北部地区民児協サンサンフェス  
(ルネス前橋駐車場)

#### 「得意」をシェアして 交流をもっと豊かに

それぞれの得意なことを持ち寄り、交流をもっと豊かに楽しむ動きが広がっています。

個人の特技を教え合ったり、地域のお店や企業が専門知識や技術を活かして関わったりと、その活動は実に多彩です。こうした住民や事業者が手を取り合う交流が生まれることで、参加者の満足度が高まり、地域の活性化へとつながっています。



地元のお茶の先生に教わりながら  
お茶を点てます(山王町一丁目)



いなばつながりカフェXmas会  
DJ、進行の協力(元総社町10区)



地元のヨガの講師の指導で  
「ゆるゆるヨガ」(関根町)

#### 「多様な主体」でつくる 新しい交流のカタチ

これからの地域づくりには、自治会やボランティア、地域団体に加え、NPOや地元企業など、多様な主体の連携が欠かせません。互いに協力し、「できる範囲で、無理のない形」で活動을続けながら、地域に合った新しい交流のカタチを育んでいきましょう。



岩神地区カレー食堂  
NPOと協力



学生×地域交流イベント!  
つむぎフェス



ポールウォーク講習  
文京地区社協×ヤクルト

(コラム)  
Column

## 広がっています障がい者アート!!

～「前橋市障害者サポートセンターこころ」のご紹介～



## アートがつなぐ新しい視点

今、メディアや展覧会で話題の「障がい者アート」。既成概念にとらわれない大胆な色使いや、繊細で独創的な表現は、見る人の心を揺さぶり、新たな気づきを与えてくれます。

こうしたアートは、単なる創作活動にとどまらず、言葉だけでは伝えきれない想いを社会へ届ける大切な自己表現として、注目を集めています。

そんな素敵な表現が生まれ、地域と共に歩む新しい拠点が、令和6年4月1日、朝日町のココルンシティエリア内に、設立されました。

## 障害者サポートセンターこころの2つの機能

センター内には、利用者のニーズに合わせた2つの機能があります。

## 1「多機能型事業所こころ」

常時介護を必要とする方のための「生活介護」と、一般就労が困難な方が働く訓練を行う「就労継続支援B型」を提供しています。

## 2「地域活動支援センターこころ」

日中の生産・創作活動を通じ、仲間と過ごす憩いの場となっています。



## 障害者サポートセンターこころとは

「前橋市障害者サポートセンターこころ」は、市内3カ所にあった福祉作業所と心身障がい者サービスセンターを移転・集約した新しい施設です。多くの人々が行き交うココルンシティという立地を活かし、障がいのある方が地域コミュニティと自然に関わり、社会との交流を深められる場所を目指して再出発しました。



## 多様な「こころ」を支える活動

当センターで、特に力を入れているのが「絵画・書道・陶芸」の3つのアート活動です。個性あふれる作品づくりは、日々の生活に彩りと自信を与えています。

「こころ」は、障がいのある方が地域の一員として輝き、地域の方々と共に生きる「地域共生」を目指しています。

まず知っていただきたいのは、ここで生まれる素晴らしいアートや、生き生きとした活動の様子です。

見学はいつでも受け入れています。

ぜひ一度、新しいセンターの空気を感じに足を運んでみてください。



前橋市障害者サポートセンターこころ  
前橋市朝日町三丁目21-14(ココルンシティ内)

- 多機能型事業所こころ  
就労継続支援B型：027-212-1352 生活介護：027-212-1351
- 地域活動支援センターこころ：027-212-1353